

ISSN 2187-9982

宇都宮大学
留学生・国際交流センター年報
2019年度

2020年8月

宇都宮大学留学生・国際交流センター

Center for International Exchange
Utsunomiya University

目次

センター長挨拶

留学生・国際交流センター長 横田 信三	1
---------------------	---

留学生・国際交流センター年報 2019年度

I 留学生・国際交流センターの概要

1 沿革・使命	7
2 組織	8
3 年間行事	8
4 センター施設移転について	11
5 新型コロナウイルス（COVID-19）感染症の世界的流行について	11

II 留学生・国際交流センターの活動

1 教育・授業	15
1.1 留学生・国際交流センター開講授業	15
(1)初級日本語補習	15
(2)中級日本語短期留学プログラム	15
1.2 基盤教育および学部・大学院での授業	18
(1)基盤教育センター	18
(2)国際学部（専門科目）	18
(3)全学科目（Learning+1）	18
(4)とちぎグローバル人材育成プログラム共通科目	18
(5)地域創生科学研究科・修士課程（社会デザイン科学専攻）	18
(6)国際学研究科・博士後期課程	18
1.3 留学生プログラム	20
(1)日本語・日本文化研修留学生プログラム	20
2 相談体制・生活支援	23
2.1 基本的認識	23
2.2 相談体制	23
2.3 相談実績	24
2.4 支援活動	24
2.5 各種オリエンテーション	25
3 留学生交流支援	28
3.1 栃木県地域留学生交流推進協議会	28
3.2 交流支援事業	29
3.3 小・中・高等学校での国際交流	31
4 留学生の獲得施策	32
4.1 日本留学フェアなどへの参加	32
4.2 外国人学生への進学説明会	38
4.3 日本語学校等を会場とした外国人学生のための進学説明会	38

4.4	国費学部留学生への大学進学説明会	41
4.5	交換留学生のための大学院進学説明会	41
4.6	宇都宮大学サテライト・オフィス	42
5	日本人学生の海外派遣留学の推進・支援	44
5.1	海外留学説明会	44
5.2	国際インターンシップ	45
5.3	海外渡航前危機管理オリエンテーション	47
5.4	海外英語研修	47
5.5	海外渡航危機管理サービス	51
6	各種協議会等への参加	52
6.1	令和元年度全国国立大学法人留学生センター長及び留学生課長等合同会議	52
6.2	令和元年度国立大学法人等国際企画担当責任者連絡協議会	52
6.3	2019年度国立大学法人留学生センター等 留学生指導担当研究協議会	53
6.4	2019年度第2回国立大学留学生指導研究協議会 (兼：第52回大阪大学留学生教育・支援協議会)	54
6.5	令和元年度日本語・日本文化研修留学生問題に関する検討会	55

Ⅲ 教員個人活動実績

横田 信三	59
湯本 浩之	63
飯塚 明子	67

Ⅳ 資 料

1	留学生在籍状況	71
2	国際交流協定校との受入・派遣状況一覧	72
3	留学生・国際交流センターの発行情	76

<センター長挨拶>



留学生・国際交流センター長 横田 信三

宇都宮大学「留学生・国際交流センター年報2019年度」が完成しましたので、お届け致します。

今年度は、宇都宮大学の国際交流を推進する、以下の大きな出来事がありました。

留学生・国際交流センターが10月に移転しました。それまでは、教員室と事務室がそれぞれ別の場所にあったのが同じ場所となり、相互の連絡等が円滑となりました。また、留学生及び日本人学生が一緒に使用できるグローバルコモンズが設置されました。新に「共修」「共生」「共育」をスローガンに、国際交流を推進して行く予定です。

本学が主催する海外英語研修が、オーストラリア・サザンクロス大学（8月25日～9月9日）、マレーシア・サラワク大学（2020年2月8日～2月24日）、及びカナダ・カピラノ大学（2020年3月5日～3月30日）で実施され、それぞれ22名、11名及び11名の学生が参加しました。センターは、準備段階から当研修をサポートし、説明会、実施に至るまで強力にサポート致しました。今後、より多くの海外英語研修プログラムを提供出来るよう努めていくつもりです。

昨年度に引き続き、農学部では、国立研究開発法人科学技術振興機構の日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプラン）に4件採択されました。2019年9月にタイ・キングモンクット工科大学 トンブリー校及びベトナム国家農業大学、2019年10月にインドネシア・ガジャマダ大学及びモンゴル科学技術大学、2020年1月にインドネシア・ボゴール農科大学、そして2020年2月にタイ・コンケン大学から、合計学生43名及び引率教員6名を本学に受け入れました。これにより、受入学生が日本の農業に関する高度な研修を体験し、日本の文化・歴史・慣習等を学習致しました。また、研修の補助をしてくれた本学学生を中心に、学生間の有意義な交流も実施することが出来ました。さらに地域デザイン科学部では、さくらサイエンス交流事業として、ベトナム・ダナン科学技術大学との第3回国際合同シンポジウムが、2020年2月に開催されました。今後も、このような留学生のための短期研修プログラムを継続していく必要があります。

今年度も、「トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム、地域人材コース」の「とちぎグローバル人材育成プログラム（上級コース）」に本学の学生5名が選出され、7月17日に、参議院議員、日本学生支援機構、栃木県及び栃木県経済同友会からの来賓をお招きして、本学で壮行会を開催致しました。これらのプログラムを通して、本学のグローバル及びグローバル人材育成が着実に進展しています。

新型コロナウイルスの影響で、春期の国際インターンシップは、台湾での1件を除いて全て中止となりました。今後、オンラインシステムの活用を含めて、新たな国際交流を模索して行く必要があります。

上記以外にも、様々な事業をセンターとして実施致しました。本教育研究論集・年報を御覧頂き、当センターの日頃の取組や活動を御理解頂ければ幸甚です。

2020年3月 吉日

宇都宮大学
留学生・国際交流センター一年報
2019年度

2020年8月

宇都宮大学留学生・国際交流センター

Center for International Exchange
Utsunomiya University

I 留学生・国際交流センターの概要



1 沿革・使命

宇都宮大学に在籍する外国人留学生は、正規生（学部学生及び大学院学生）及び非正規生（交換留学生、研究生及び日本語・日本文化研修留学生等）合わせて、令和元（2019）年10月現在では、世界26カ国から290名の留学生が学んでいる。

留学生・国際交流センター（以下、「センター」という。）は、当初外国人留学生に対し、必要な日本語・日本事情教育及び修学・生活上の指導助言を行うとともに、留学生と地域との交流の推進や海外留学を希望する学生に対する指導助言を行うことを目的として、平成14（2002）年4月に留学生センターとして設置された。

その後、平成24（2012）年4月に留学生・国際交流センターへ改組し、それまでの「日本語教育運営部門」と「留学生指導・相談部門」の2部門に、「国際交流推進部門」を新たな部門として設置して3部門とし、国際交流のより積極的に具体的な業務展開を推進することとした。さらに、平成29（2017）年4月に部門制を廃止し、新たな体制として各学部等の協力教員を加え、各学部等との連携を強化した。

センターには、センター長、専任教員2名（うち1名は副センター長）、センター協力教員6名、特命教授1名、コーディネーター1名、また事務体制として留学生・国際交流センター事務室が配置され、教育、相談指導、交流事業等の業務に当たっている。主な内容は次のとおりである。

(1) 日本語の授業

センターでは、研究・交流の場や日常生活の中で円滑な意思疎通が行えるように、留学生にさまざまな学習の機会を用意している。日本語の授業は、初級から上級までをカバーし、日本語のコミュニケーション技能と、日本語で行われる学術・研究活動での表現力の向上を目指すものである。現在、全留学生を対象としたカリキュラムとともに、学部留学生や国費留学生（研究留学生、教員研修留学生、日本語・日本文化研修留学生）を対象とした授業を行っている。

(2) 相談指導

相談指導担当の教員が、修学上や生活の中で生じた問題について、留学生と話し合い、適切な助言を与えている。また、留学生、チューター指導教員の間で連携をとることにより、必要なときに適切な支援ができるシステムづくりを目指している。

(3) 交流事業

センターは、留学生と地域社会との充実した交流プログラムづくりに努めている。また、地元の国際交流団体やボランティアグループと連携することにより、交流の機会を少しでも増やそうと、地域住民に呼びかけてホームステイ体験事業を行っている。同時に多彩な文化交流活動を通じて、留学生と日本人学生の相互理解を深め異なる文化をお互いに尊敬する態度を養っている。

(4) 留学生・国際交流課

平成31（2019）年4月に事務組織改編により、学務部が改組され、留学生・国際交流課は留学生・国際交流センター事務室として、センター直属の事務組織となった。事務室は、学生及び教員の国際交流に関する様々な業務及びセンター運営にかかる事務も担当し、留学生が安心して勉学に専念できるよう、以下のような修学上・生活上の支援業務を行っている。

- ①奨学金に関すること
- ②国際交流会館の入退居に関すること
- ③海外留学に関すること
- ④留学生のチューターに関すること
- ⑤地域交流事業についての情報提供に関すること

2 組織

(令和2(2020)年3月1日現在)

留学生・国際交流センター教員		
センター長(農学部教授併任)	横田 信三	
教授(副センター長)	湯本 浩之	
助 教	飯塚 明子	
協 力 教 員	地域デザイン科学部 准教授	三田 妃路佳
	地域デザイン科学部 准教授	藤倉 修一
	国際学部 准教授	出羽 尚
	国際学部 准教授	栗原 俊輔
	教育学部 准教授	山野 有紀
	工学部 教授	大谷 幸利
	農学部 准教授	福村 一成
サテライト・オフィス(タイ・カセサート大学内)		
特 命 教 授	後藤 章	

学務部 留学生・国際交流課	
事務室長 兼 留学生係長	田崎 正憲
国際交流企画係長	神戸 幸
留学生係主任	沖杉 礼子
係 員	小川 麻友
事務補佐員	野澤 慶子
事務補佐員	大坪 里紗
事務補佐員	山本 由紀恵
事務補佐員	阿部 ひかり
事務補佐員	二宮 由美
国際インターンシップ事務室	
コーディネーター	栗原 謙治
事務補佐員	大坪 里紗

<非常勤講師>

〔日本語教育〕石川 美和 八重島 炎 木林 理恵 森谷 祥子
 〔Learning+1〕児島 建彦

3 年間行事

<4月>

- 3日(水) 国際交流会館入居説明会
- 3日(水) 保護者向け留学情報説明会
- 5日(金) 海外英語研修(マレーシア・サラワク大学) 報告会
- 8日(木) 4月来日留学生(学部留学生を除く)オリエンテーション
- 8日(月) 4月来日留学生生活上の留意事項説明会/4月来日留学生歓迎会
- 8日(月) 学部新入生向け留学情報説明会
- 10日(水) 学部1年生及び編入留学生オリエンテーション
- 18日(木) 海外留学説明会
- 19日(金) 令和元年度留学生支援事業に関する担当者会議
(主催: 栃木県国際交流協会)



来日留学生歓迎会ポスター

<5月>

- 11日(土)~12日(日) ホームステイウィークエンド in 那珂川2019(春: 田植え)
(主催: 那珂川国際交流事業企画運営委員会、那珂川町教育委員会)
- 24日(金) 平成30年度春期国際インターンシップ報告会及び令和元年度夏期説明会
- 24日(金)・28日(火) 海外英語研修募集説明会(オーストラリア・サザンクロス大学)
- 25日(土) 令和元年度新規外国人留学生のためのガイダンス及び懇親パーティー
(主催: 栃木県国際交流協会、栃木県地域留学生交流推進協議会)

<6月>

- 6日(木) アメリカ・トライン大学留学担当者来学
- 13日(木) 栃木県地域留学生交流推進協議会総会/令和元年度留学生との交流会
(主催: 栃木県地域留学生交流推進協議会)

- 24日(月) 大学進学フェアforエリート日本語学校
 26日(水) グローバル人材のための合同企業説明会(都内)
 (主催:栃木県・栃木県国際交流協会)
 27日(木) 令和元年度交換留学説明会
 27日(木) 大学・大学院フェア@JET日本語学校
 29日(土)~30日(日) 2019年度外国人留学生ホームステイ
 受入事業(宇都宮市、主催:NPO法人宇都宮市国際交流協会)



海外英語研修(サザンクロス)
募集説明会ポスター

<7月>

- 6日(土) 2019年度外国人学生のための進学説明会(東京会場)(主催:JASSO)
 7日(日) 第31回国際交流(七夕)の集い(主催:栃木経済交友会)
 12日(金) 国際交流会館退去説明会
 17日(水) 令和元年度(第11期)トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム・地域人材コース壮行会
 18日(木) 令和元年度第1回海外留学渡航前危機管理オリエンテーション
 20日(土)~21日(日) 日本留学フェア(台湾)
 24日(水) JICA海外青年協力隊事業説明会(UUプラザ)
 24日(水)~25日(木) 留学生・国際交流センター施設移転
 29日(月) 日本語学校進学説明会(アジア学生文化協会ABK日本語学校進学説明会)
 31日(水) 前期日本語短期留学プログラム修了発表会
 31日(水) 令和元年度交換留学生のための大学院進学説明会



国際交流(七夕)の集いポスター

<8月>

- 1日(木) 「日本語・日本文化研修留学生」修了レポート発表会
 25日(日)~9月9日(月) 海外英語研修(オーストラリア・サザンクロス大学)

<9月>

- 2日(月) 日本語学校進学説明会(長沼スクール東京日本語学校)
 4日(水)~11日(水) 国際インターンシップ先訪問・開拓(台湾、タイ)
 11日(月) 日本語学校進学説明会(ARC日本語学校)
 17日(火) 日本語学校進学説明会(早稲田外国語学校)
 26日(木) 国際交流会館入居説明会
 28日(土)~29日(日) 日本留学フェア(韓国)
 30日(月) 10月来日留学生オリエンテーション

<10月>

- 1日(火) 10月来日留学生生活上の留意事項説明会/10月来日留学生歓迎会
 2日(水) グローバル人材のための合同企業説明会(県内)(主催:栃木県・栃木県国際交流協会)
 5日(土)~6日(日) 日本留学フェア(ベトナム)
 9日(水) 海外英語研修プログラム(オーストラリア・サザンクロス大学)報告会
 12日(土)~13日(日) ホームステイウィークエンド in 那珂川2018(秋:稲刈り)
 (主催:那珂川町教育委員会、那珂川国際交流事業企画運営委員会)

- 17日（木） 令和元年度交換留学フェア
- 23日（水） 海外英語研修プログラム（マレーシア・サラワク大学, カナダ・カピラノ大学）説明会
- 25日（金） 令和元年度国費（学部進学）留学生への大学進学説明会（主催：東京外国語大学）
- 29日（火） 令和元年度夏期国際インターンシップ報告会及び春期説明会

< 11 月 >

- 11日（月） 令和元年度国立大学法人等国際企画担当責任者連絡協議会
（主催：東京医科歯科大学・東京外語大学）
- 12日（火） 令和元年度全国国立大学法人留学生センター長及び留学生課長等合同会議
（主催：群馬大学）
- 15日（金） 外国人留学生のための就活セミナー（主催：栃木労働局外国人留学生就職支援協議会）
- 15日（金） 令和元年度日本語・日本文化研修留学生問題に関する検討会議（主催：大阪大学）
- 18日（月） 台湾高雄市技能優秀学生との意見交換会
- 23日（土） 宇都宮大学創立70周年記念式典「宇都宮大学SDGs推進奨励賞」授与式
- 27日（水） 令和元年度留学生指導教員及び事務担当者研修会
（主催：栃木県地域留学生交流推進協議会）

< 12 月 >

- 12日（木） 外国人留学生と地域交流団体等との交流会
- 18日（水） TOCHIGI JOB FAIR IN DANANG（ベトナム社会主義共和国の現地大学生等を対象とした合同企業説明会）（主催：栃木県）

< 1 月 >

- 15日（水） 令和元年度第2回海外渡航前危機管理オリエンテーション
- 17日（金） 国際交流会館退去説明会
- 29日（水） 令和元年度後期中級日本語短期プログラム修了発表会

< 2 月 >

- 8日（木）～24日（金） 海外英語研修（マレーシア・サラワク大学）
- 27日（木） 栃木県地域留学生交流推進協議会運営委員会
（主催：栃木県地域留学生交流推進協議会）

< 3 月 >

- 5日（木）～30日（金） 海外英語研修（カナダ・カピラノ大学）



海外英語研修（サラワク・カピラノ）説明会ポスター

※3月6日（金）に、令和元年度第3回栃木労働局外国人留学生就職支援協議会（主催：栃木県労働局外国人留学生就職支援協議会）を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の流行により、中止となった。



4. センター施設移転について

峰キャンパス4号館改修工事の完了に伴い、5号館C棟1階及び4階にあった留学生・国際交流センター施設と、学務棟2階にあったセンター事務室が、7月下旬に4号館1階に移転した。

これにより、老朽化していたセンター専用の講義室や演習室、会議室等は廃止され、改修後の各施設を学部や他センターと共同利用することとなった。また、専任教員室と事務室が同一建物内に存在することとなり、センター関係教職員の連携強化が図られた。

ほか、外国人留学生専用コモンズであった国際交流スペースは廃止されたが、全学学生向けのラウンジであるインフォメーションホール、外国人・日本人関わらない留学生用コモンズとしてグローバルコモンズ、足洗い場を備えたムスリム用のPrayer Room（祈祷室）が改修後の4号館に新設され、当センター管理施設となった。

5. 新型コロナウイルス（COVID-19）感染症の世界的流行について

1月下旬から、中国武漢市を発端として、新型コロナウイルス（COVID-19）感染症の世界的流行が始まり、外務省は感染症危険レベル2以上（不要不急の渡航禁止）を1月は中国、2月下旬以降はヨーロッパ、北米、アジア各国、2020年4月以降も南米、アフリカ、と、次々と渡航・来日ともに制限がかかった。

また、厚生労働省の検疫により、感染症リスクのある外国から日本に入国の際は、空港から自宅への移動に公共交通機関利用の自粛及び2週間の自宅待機要請が行われた。海外各国も現地大学等へキャンパス閉鎖要請等を行い、キャンパスのロックダウンが行われたため、派遣中の交換留学生や海外研修中の学生が、研修中止等で急遽帰国や出国できないこととなった。

併せて、日本国内も2020年4月に政府が緊急事態宣言を発し、県内外の移動自粛や、各事業所における感染流行予防策、いわゆる「3密回避」等の要請が自治体等及び文部科学省からも予防徹底の指示があり、本学も卒業式等の行事を中止とした。

事務室は、派遣中の交換留学生や英語研修生、長期休暇を理由とした海外旅行や帰省中で日本に再来日できなくなった留学生の帰国支援や、逆に帰国できなくなった外国人留学生の国際交流会館滞在延長手続き、4月来日予定だった交換留学生等の留学延期や中止の手続き、またそれら留学計画変更に伴い各種奨学金支給団体等から発せられた特例措置への対応を行った。また、学長指示により、緊急事態による例外的学生支援として、卒業単位に関わる授業の一環である海外研修に参加中・参加予定であった学生に限り、キャンセル料を、3C基金留学奨励金から1人4万円上限として、令和元年度末から2年度にかけて助成した。

翌年度は、入学式や新入生ガイダンスの中止、2020年4月9日に本学は「新型コロナウイルス感染症対策のための本学の対応方針」を定め、全学生のキャンパス入構制限を行い、4月20日からメディア授業により前期授業が開始し、当センターの日本語授業も同様となった。

（留学生・国際交流センター事務室）

Ⅱ 留学生・国際交流センターの活動



1 教育・授業

1.1 留学生・国際交流センター開講授業

(1) 初級日本語補習

平成30(2018)年度より従来の初級日本語補習に代えて、単位が取得できる正規科目として以下のような初級日本語科目を開講した。これらの科目は、宇都宮大学および各学部が交流協定を結んでいる海外の大学からの交換留学生や研究留学生などを対象としたもので、日本語の基本的な文法や語彙、表現を学びながら、聞くことや話すことを総合的に学び、日本語運用能力の向上を目的とするものである。

	科目名	コマ/週	単位	担当教員	受講学生
前期	初級日本語 I A 文法・語彙①	2	2	石川	特別聴講学生 (日研究生・交換留学生・短期留学生など) 大学院生 研究留学生 教員研修生 研究生
	初級日本語 I A 聴解・口頭表現①	2	2	石川	
	初級日本語 II A 文法・語彙②	2	2	木林	
	初級日本語 II A 聴解・口頭表現②	2	2	森谷	
後期	初級日本語 I B 文法・語彙①	2	2	石川	
	初級日本語 I B 聴解・口頭表現①	2	2	石川	
	初級日本語 II B 文法・語彙②	2	2	木林	
	初級日本語 II B 聴解・口頭表現②	2	2	八重島	

(2) 中級日本語短期留学プログラム

留学生・国際交流センターでは、平成20年4月から、「宇都宮大学中級日本語短期留学プログラム」を実施してきている。本プログラムは、本学と交流協定を締結している海外の大学から派遣された留学生を対象とした、6ヶ月～12ヶ月間の留学プログラムで、このプログラムを通して日本語能力を上げるとともに、日本社会および日本文化について理解を深めることを目的にしている。

海外の交流協定提携校から本学に派遣された外国人留学生は、日本語能力が非常に限られており、その中には、中級日本語の授業を受講できるレベル（日本語検定試験3級くらいのレベルで、日常生活面においては、簡単な買い物ができ、自分で電車に乗られるくらいのレベル）の学生が多かった。これらの留学生は、学部で提供されている普通の日本人向けの授業を受講することは非常に困難である。これらの留学生のニーズに答えるため、留学生センターでは、検討を重ねた結果、平成20(2008)年度から、交流協定を結んでいる海外の大学からの留学生を対象とする「中級日本語短期プログラム」を実施することになった。平成31(2019)年度では、20名の留学生が本プログラムを修了した。

本プログラムの目的や平成31(2019)年度の実施要領等を以下に示す。

1) 目的

宇都宮大学（以下、本学という。）短期留学プログラムは、本学と交流協定を締結している海外の大学からの留学生を対象として受け入れ、本学における日本語教育、日本文化等の授業科目を提供するための教育プログラムである。この短期留学プログラムは、日本および日本文化に対するより良き理解者としてだけでなく国際社会で活躍できる人材を育成することを目的に、6ヶ月～12ヶ月にわたり、本学での日本語教育、日本文化体験および本学の学生・教職員との交流等を実施するであり、以下の通り要領を定める。

2) 対象者

本学短期留学プログラムに出願できる者は、以下の3つの要件をすべて満たしたものとする。なお、留学生センター長が特別許可する者については、その限りではない。

- ①本学と学生交流協定を結んでいる外国の大学の正規課程に在籍している学部学生又は大学院学生。
- ②渡日前に300時間程度の日本語教育を受けている者、あるいは日本語能力試験3級に合格している者。

3) 受入れ期間

原則として、10月からの1年間、又は4月からの半年間とする。

4) 受入れ予定人数

10名～15名程度とする。

5) 修了要件

- ①一学期において、「短期留学プログラム」のコア日本語科目の中から3科目以上を履修すること。ただし、学生の日本語能力によって、共通教育、または国際学部で開講する日本語科目を用いて替えることが出来る。
- ②一年間のコースには、年間10科目以上を履修し、かつ単位を取得すること。また、半年間のコースでは、5科目以上を履修し、かつ単位を取得すること。
- ③自主研究レポートを提出すること。

6) 自主研究：「短期留学生特別演習 A.B.」

留学生は担当教員と相談した上で研究テーマを決める。更に、担当教員の指導のもと、研究成果をまとめたレポートを修了時に提出する。

7) 成績評価・単位認定

この教育プログラムの受講生に対して、履修した授業科目、成績評価および単位数を記載した成績書を発行する（ただし、留学センター開講科目については留学生センター長名で発行する）。本学の発行した成績書に基づき、留学生を派遣した大学において単位認定が行われる。但し、学位取得に関する単位として認定するか否かの判断は留学生を派遣した大学に委ねる。

8) 平成 31 年度中期日本語科目

	科目の種類	科目名	単位	担当教員
前期	コア日本語科目	中級日本語IA文法	1	八重島
		中級日本語IA読解	1	石川
		中級日本語IA作文	1	木林
		中級日本語IA聴解と会話	1	八重島
		中級日本語Ⅱ 漢字と漢字文化	1	戚
		中級日本語Ⅱ 中級会話A	1	(非開講)
		中級日本語Ⅱ 中級文法A	1	八重島
		中級日本語Ⅱ 中級聴解A	1	戚
		中級日本語Ⅱ 中級読解A	1	石川
		中級日本語Ⅱ 中級作文A	1	八重島
	中級日本語Ⅱ 中級総合	1	森谷	
	演習科目 (必修)	短期留学生特別演習 A	2	戚
後期	コア日本語科目	中級日本語IB作文	1	森谷
		中級日本語IB読解	1	森谷
		中級日本語IB聴解と会話	1	戚
		中級日本語IB文法	1	八重島
		中級日本語Ⅱ 中級文法B	1	八重島
		中級日本語Ⅱ 中級聴解B	1	森谷
		中級日本語Ⅱ 中級読解B	1	八重島
		中級日本語Ⅱ 中級会話B	1	戚
		中級日本語Ⅱ 中級作文B	1	石川
		中級日本語Ⅱ 中級漢字	1	石川
		短期留学生特別演習 B	2	戚
		演習科目 (必修)	短期留学生特別演習 B	2

9) 平成 31 (令和元) 年度「中級日本語短期留学プログラム」前期修了発表会

①日 時：7月31日(水) 16:40～19:00

②会 場：5号館C棟4階国際交流学習室

③プログラム(敬称略)：

1) 開会の辞：横田 信三(留学生・国際交流センター長)

2) 発表題目

a. 日本における中国語の誤訳について：看板やメニューを中心に

..... 陳 晨(国際学部・交換留学生)

b. 日本における七夕祭りの起源と変遷 林 丹(国際学部・交換留学生)

c. 日本文化における助成崇拝：天照大御神の分析を中心に 楊 婭妮(国際学部・交換留学生)

d. 日本におけるいじめ問題 ティム・ヘンリー(国際学部・交換留学生)

e. 日本のマスメディアに関する一考察 アルバーツキー・アルセニー(国際学部・交換留学生)

f. 日本に学ぶ台湾の地方創生 陳 威樺(国際学部・交換留学生)

g. 色が持つ文化的意味 ヴィクトリア・ナムサラエワ(国際学部・交換留学生)

h. 東日本大震災におけるメディア報道の偏り 劉 宇恒(国際学部・交換留学生)

i. 地震について エン・ワンネット(教育学部・交換留学生)

j. ニートに関する一考察 Wong Nga Sze(国際学部・交換留学生)

k. 日本における一人暮らしの実体 チョト・スンナリー(教育学部・交換留学生)

l. 「もののあわれ」という美意識 陳 欣怡(国際学部・交換留学生)

m. 日本文学における怨霊の発展 ストレダンスカー・ナターリア(国際学部・交換留学生)

n. 日本の推理小説 留 慧寧(国際学部・交換留学生)

o. 日本に来たタイ人のカルチャーショック

..... スワンメーク・チャナカーン(国際学部・交換留学生)

3) 質疑応答

4) 総評：「中級日本語短期留学プログラム」コーディネーター 戚 傑

10) 平成 31 (令和) 年度「中級日本語短期留学プログラム」後期修了発表会

①日 時：1月29日(水) 17:20～18:30

②会 場：5号館C棟4階国際交流学習室

③プログラム(敬称略)：

1) 開会の辞：横田 信三(留学生・国際交流センター長)

2) 発表題目

a. 日本のオタク文化 キン エイシン(国際学部 交換留学生)

b. 韓国における公務員の政治参加について イ・チェウン(国際学部 交換留学生)

c. 日本語における男性用語と女性用語の差異 李 夢欣(国際学部 交換留学生)

d. 日本における陽明学に関する一考察 羅 琦(国際学部 交換留学生)

e. 「断捨離」に見る美意識 劉 琳(国際学部 交換留学生)

3) 質疑応答

4) 総評：戚 傑(「中級日本語短期留学プログラム」コーディネーター)

(湯本)

1.2 基盤教育および学部・大学院での授業

留学生・国際交流センターの専任教員は、基盤教育センターや国際学部をはじめ、全学科目である Learning+1 や新設された大学院(地域創生科学研究科)などにおいて授業科目を担当している。平成 31(2019)年度にセンター所属の専任教員および非常勤講師が開講した授業科目は以下の通りである。

なお、当初は全学科目の Learning+1 の英語講科目として開講された Globalization and Society (*1)、Risk Management (*2) および International Political Economy (*3) は、それぞれ同じ講義内容で複数の学部の専門科目やとちぎグローバル人材育成プログラム共通科目などとしても同時開講されている。

(1) 基盤教育センター

学期	科目名	担当教員	備考
前期	災害に強いコミュニティづくり	飯塚	
	3.11 学問の不確かさ	清水 (国際)	第 11 回を担当 (飯塚)

(2) 国際学部 (専門科目)

学期	科目名	担当教員	備考
前期	グローバル実践力基礎演習	スエヨシほか	第 2 回を担当 (湯本)
	グローバルイシュー研究演習 I	重田・湯本・阪本	
	グローバル教育論	湯本	
	国際協力研究演習 F (グローバル教育論演習)	湯本	
	卒業研究 I	湯本	
後期	グローバルイシュー研究演習 II	重田・湯本・阪本	
	Disaster Studies	飯塚	英語開講科目
	外国語臨地演習 (英語)	出羽・飯塚ほか	サラワク大学
	卒業研究準備演習	湯本	
	卒業研究 II	湯本	
集中	国際キャリア教育	湯本ほか 2 名	飯塚は分科会 C を担当
	国際キャリア実習 (インターンシップ)	湯本ほか 2 名	2 名は国際学部の教員
	Globalization and Society*1	湯本	英語開講科目
	Risk Management*2	飯塚	英語開講科目
	International Political Economy*3	兒島	英語開講科目

(3) 全学科目 (Learning+1)

学期	科目名	担当教員	備考
集中	国際インターンシップ	湯本・飯塚ほか	単位は各学部の関連科目に振り替え
	Globalization and Society*1	湯本	英語開講科目
	Risk Management*2	飯塚	英語開講科目
	International Political Economics*3	兒島	英語開講科目

〔備考〕 Globalization and Society*1 は国際学部のほか、地域デザイン科学部、工学部、農学部でも開講されている。

(4) とちぎグローバル人材育成プログラム共通科目

学期	科目名	担当教員	備考
集中	Globalization and Society*1	湯本	英語開講科目
	Risk Management*2	飯塚	英語開講科目

(5) 地域創生科学研究科・修士課程（社会デザイン科学専攻）

学期	科目名	担当教員	備考
後期	グローバル教育と開発教育Ⅰ・Ⅱ	湯本	グローバルエリア・スタディーズ・プログラム
	防災と国際協力Ⅰ・Ⅱ	飯塚	グローバルエリア・スタディーズ・プログラム
集中	Globalization and Society*1	湯本	地域創生リテラシー科目
	International Political Economics*3	兒島	地域創生リテラシー科目
通年	グローバル・エリアスタディーズ特別演習	湯本	
	グローバル・エリアスタディーズ特別研究	湯本	

(6) 国際学研究科・博士後期課程

学期	科目名	担当教員	備考
後期	国際教育政策研究	湯本	

(湯本)

1.3 留学生プログラム

(1) 日本語・日本文化研修留学生プログラム

留学生・国際交流センターでは旧称「留学生センター」として発足以来、文部科学省の国費留学生である「日本語・日本文化研修留学生」（略称「日研生」）を毎年受け入れている。

日研生は10月に来日後、必修科目4科目、および基盤教育科目、各学部専門科目、留学生・国際交流センター科目の中から自分の研修テーマに関連する選択科目12科目の合計16科目を履修する。そして、日本語能力の向上と日本文化に関する専門知識の深化を図るとともに、担当教員や指導教員の下で研修を進め、帰国までにその成果を研修レポートとして提出する。

1) 授業科目

科目種別	学期	授業科目名	単位数	開講部局
必修科目 (4科目)	前期 (※1)	「日本語・日本文化Ⅱ」	2	留学生・国際交流センター
		「日研生特別研究Ⅱ」	2	留学生・国際交流センター
	後期 (※2)	「日本語・日本文化Ⅰ」	2	留学生・国際交流センター
		「日研生特別研究Ⅰ」	2	留学生・国際交流センター
選択科目 (12科目)	上級レベル日本語科目	日本語アカデミック・リーディングⅡ	1	基盤教育センター
		日本語アカデミック・プレゼンテーション	1	基盤教育センター
		科学技術のための専門日本語	1	基盤教育センター
		人文社会系のための専門日本語	1	基盤教育センター
	言語・日本文化 関連の科目	日本事情	2	基盤教育センター
		Japanese Communication Arts	2	基盤教育センター
		多言語コミュニケーション学A	2	基盤教育センター
		多言語コミュニケーション学B	2	基盤教育センター
		日本語の表記	2	基盤教育センター
		Globalization and Society	2	国際学部
		グローバル教育論	2	国際学部
		移民と多文化教育	2	国際学部
		日本語論	2	国際学部
		日本語史	2	国際学部

	対象言語学	2	国際学部
	日本文化論	2	国際学部
	異文化間コミュニケーション	2	国際学部
	日本文学史	2	教育学部
	日本文学概説A	2	教育学部

※1 前期：平成 30 年度（2018-2019）日研究生対象

※2 後期：平成 31 年度（2019-2020）日研究生対象

2) 日本語・日本文化研修留学生修了レポート発表会

2018 年 9 月末に、中国、タイ、ドイツの 3 か国から計 4 名の日研究生が来日したが、2019 年 8 月に、1 年間の研修成果をまとめた修了レポート発表会を開催し、1 年間のプログラムを無事に修了した。かれらの研修テーマは以下の通りであったが、日本語や日本文化に関するたいへんユニークなテーマが取り上げられており、学生たちの日本文化や日本社会に対する関心の高さをうかがうことができた。なお、同年 12 月に修了レポート集を発行したので、詳細は同レポートを参照されたい。

<実施概要>

日 時：2019 年 8 月 1 日（火） 14：30～15：30

会 場：峰キャンパス 5 号館 C 棟 4 階国際交流学習室

内 容：(司会) 飯塚 明子（「日本語・日本文化研修留学生プログラム」担当教員）

①開会の辞：湯本 浩之（留学生・国際交流センター副センター長）

②修了レポート発表：

1) 「手帳から見た日本文化」周 慧毓（シュウ・ケイイク、中国）

（指導教員）国際学部：鎌田 美千子 先生

2) 「日本社会における長時間労働と過労死問題について：過労死は正のために」

舒 立言（ジョウ・リツゲン、中国）

（指導教員）国際学部：マリー ケオマノータム 先生

3) 「蒸気機関車は地域活性化に貢献できるか：栃木県鬼怒川地域の事例」

アロムコン・キッタパート（タイ）

（指導教員）農学部：大栗 行昭 先生

4) 「広告の中の女性像に対する日本人大学生の印象」

アレハンドロ・アントニオ ガヴリック・コステ（ドイツ）

（指導教員）国際学部：モリソン バーバラ 先生

③閉会の辞：飯塚 明子（「日本語・日本文化研修留学生プログラム」担当教員）

3) 平成 31（2019）年度日本語・日本文化研修留学生の受け入れ

2019 年 9 月末に、平成 31（2019）年度の日本語・日本文化研修留学生（日研究生）4 名が来日した。大学歴の後期にあたる研修前半（10 月～3 月）では、日本語・日本文化研修留学生プログラムの必修科目「日研究生特別研究 I」の学外研修として、以下のような他部局や学外組織の主権によるプログラムに参加した。

なお、後期の授業終了時点（2020 年 1 月）での研修テーマは以下の通りである。研修後期にあたる来年度前半は、さらにテーマを検討しながら修了レポートを執筆していくこととなる。

①フィールドワーク&シンポジウム「国際交流都市日光の再発見：『観光モデルを留学生と考える』プロジェクト」

国際学部附属多文化公共圏センターと日光市国際交流協会が共催した標記のフィールドワークとシンポジウムに参加した。このプログラムは、宇大の留学生や海外体験のある学生を対象に、「国際交流都市日

光の魅力」を①観光開発、②国際交流、③地域づくり、の3つの視点から再発見し、留学生と海外経験のある日本人学生の気づきによる「観光モデル」のためのフィールドワーク、シンポジウムを通じて提言を行い、日光に対して国際貢献・地域貢献していくことを目的としたものである。

<実施概要>

日 程：2019年11月4日（祝）、10日（日）および12月7日（土）

主 催：国際学部附属多文化公共圏センター・日光市国際交流協会

参加費：無料

参加者：日研生4名

引率者：湯本浩之（留学生・国際交流センター）

内 容：

①オリエンテーションと第1回フィールドワーク（11月4日）

午前：日光郷土センターにてオリエンテーション

午後：フィールドワーク（グループに分かれ、日光駅や東照宮周辺において外国人観光客や店主らにインタビュー調査）

②第2回フィールドワーク（11月10日）

午前：奥日光エリアに移動。英国・イタリア大使館別荘記念公園、栃木県立日光自然博物館などを見学。

午後：グループに分かれ、中禅寺湖周辺で外国人観光客や店主らにインタビュー調査。

③公開シンポジウム（12月7日、宇都宮大学 UU プラザ）

10：00 開会・趣旨説明

10：10～ 第1部 講演「奥日光健康診断と持続可能な観光地づくり」
五木田 玲子氏（公益財団法人日本交通公社 主任研究員）

10：50～ 第2部 留学生によるプレゼンテーション「国際交流都市日光の再発見」

11：40～ プレゼンテーションへのコメント（講評）

12：10～ 質疑応答・閉会



シンポジウム「国際交流都市日光の再発見」

②益子での合同学外研修

日本文化理解を目的した学外研修を「日本語・日本文化Ⅰ」および「日研生特別研究Ⅰ」の2つの必修科目の合同で実施した。本年度は益子を訪問し、日下田藍染工房では日下田正氏より、伝統的な草木染めや藍染めの技法について講話をいただいた。また、窯元つかもとでは「ろくろ」を使った陶器づくりを体験したほか、外池酒造では日本酒の製法に関する映像資料を視聴した。

なお、移動に際しては、本学の共用車を利用した。



日下田藍染工房での日下田氏の講話

<実施概要>

日 時：2020年3月10日（火） 9：00～17：00

研修・訪問先：①日下田藍染工房、②窯元つかもと、③場内坂通り、④外池酒造。

参加者：日研生4名（1名は不参加）

引率教員：湯本浩之・木林理恵



益子での「ろくろ」体験①



益子での「ろくろ」体験②

③平成 31（2019）年度日研生の研修テーマ（2020 年 1 月現在）

平成 31（2019）年度日研生の研修テーマは以下の表の通りである。

名前	国籍	大学名	研修テーマ
Jang Hyerin (ジャン・ヘリン)	韓国	祥明大学校	ファッション強国、日本が持つ力
石穎 (セキ・イン)	中国	電子科技大学	日本のゴミ分別の方法から中国のゴミ問題の解決を探る
Ithisak Tosomphap (イッテイ サック・トースムパープ)	タイ	カセサート大学	なぜ宇都宮の人はよく自転車を使うのか
呉詩青 (ゴ・シセイ)	中国	浙江師範大学	飲食店における日本の習慣
Robert Cagarda (ローベルト・ ツァガルダ)	スロベニア	パラツキー大学	説話・今昔物語集に出てくる動物が象徴するもの・こと

(湯本)



2 相談体制・生活支援

2.1 基本的認識

下記の〔事前の対策〕と〔様々な制約の中での適切・迅速な対応〕については、毎号ほぼ同じ文章を掲載している。これは、留学生・国際交流センターが実施する「相談・指導」の根本に関わるからである。

〔事前の対策〕

留学生の置かれている立場は不安定なものである。一見何の問題もなく、元気で楽しく過ごしているようにみえる留学生でも、日本という「異国=外国」での生活は母国同様であるはずがなく、常にストレスと隣り合わせの毎日である。留学生と接する教員・職員は、このことを基本的認識として心にとどめ、日頃から彼らの行動や表情に注意を払う必要があるだろう。そして何らかの変化が見えたとき、留学生に歩み寄り、その変化に危険な要素が含まれていないかどうかを確認することが常に求められている。つまり、すでに起こってしまった問題にどのように対処するかということ以前に、問題を起こさないための事前の解決が極めて重要な任務となる。

〔様々な制約の中での適切・迅速な対応〕

しかしながら、全ての留学生にまんべんなく接することは不可能と言わざるをえない。そこから何らかの問題が生ずることは避けられない事実でもある。実際のところ、大学が提供している生活環境、就学環境は、残念ながら必ずしも適正なものとはいいがたい。それが原因となり留学生の心理が揺らぎ、留学生の生活に重大な影響を与えることもありうる。留学生を取り巻く環境を改善するには多額の資金が必要となり、大学全体として取り組む姿勢が十分整っていない現実は遺憾と言わざるをえないが、そうした状況であっても、留学生と接する教員・職員は、むしろその中でより良い相談体制、より良い生活支援はどうあるべきかを考えると同時に、様々な制約下の現状でも実践できるものを実践して行くという姿勢が必要である。特に深刻な問題を抱える留学生に対しては、解決に向けて適切に対応し、迅速に行動することが求められる。

(横田)

2.2 相談体制

留学生・国際交流センター専任教員2名が、生活・就学相談の担当者である。授業中、または授業の前後に何気なく交わす会話も重要である。「相談」と改まって構えるのではなく、留学生が言葉で表すことができないでいる、その時々々の心理状態を自然な対応で探ることが出来るからである。それにより、深刻な事態になる以前に留学生の気がかり、不安、現実的な問題を取り除く役割を果たしている。

2名の教員各自がオフィスアワーを設け、出来る限り留学生の相談に乗れる体制も取っている。留学生は、このオフィスアワーに、授業等で接する機会の多い教員の所へ相談に行く傾向がある。その際、留学生によっては長い滞在中、精神的に不安定な状態に陥る者もある。これはかなり深刻なケースであり、そのような場合、彼らは相談相手として先ず自分が最も信頼でき、しかも母国語でコミュニケーション出来る人を求める。当センターの2名の教員とも、英語に堪能であり、実際に、深刻な問題を抱えて担当教員を訪れた留学生もいる。言語に関しては完璧とまでは行かないまでも、ある程度整った環境であると判断される。

留学生・国際交流課の職員も、留学生の相談に大きな役割を果たしている。彼らが諸手続等を行うために留学生・国際交流課の窓口に来た際、積極的に留学生に話しかけ、心配事、相談したいことがないかどうか、常に配慮している。特に、交通事故、病気などの連絡が入った場合、休日を問わず、留学生をサポート出来る体制となっている。また、英語及び中国語に堪能な職員が数名おり、留学生のサポート体制を強化している。

留学生国際交流会館に居住する留学生に対しては、センター教員及び協力教員が相談担当者となっている。4月及び10月の週に1日、夕方から数時間、これらの教員が交代で会館に出向いて留学生の相談に当たっている。

この様に、相談体制については、相談・指導担当の教員だけでなく、センターの教員・協力教員・職員が総動員で当たっている現状である。

【平成 31 年度留学生・国際交流センター専任教員のオフィスアワー】

曜日 教員名	月 MON	火 TUE	水 WED	木 THU	金 FRI	E-mail *@以下は、 cc.utsunomiya-u.ac.jp
湯本		12:00～13:00				yumoto@
飯塚			10:00～12:00			iizuka@

(横田)

2.3 相談実績

留学生・国際交流センターでは、留学生の様々な生活上の問題について相談を受けるのは当然のことながら、それに加えて日本人学生の留学関連の相談や、留学生と日本人学生の交友・交流に関するアイデア、企画に関する相談等も行っている。以前は、個々の相談に関する情報（日時、内容、留学生・日本人学生等の種別）を表で示していたが、実際に行った相談を全て記録することが実質的に不可能なので（※ 近年、メールや電話による、問い合わせ・相談等が増加していることもその一因である）、2011 年号以降、表による実績表示を止めている。

主な相談内容は次のとおり。

〔留学生〕

修学・進学／アルバイト／奨学金／住居／各種保証人／在留期間更新・在留資格変更 等

〔日本人学生〕

派遣留学に関する相談／チューター・アドバイザー関連／留学生との交流 等

留学生からの相談で深刻なものは、病気やケガ・交通事故等に関するものである。特に交通事故については、学生本人が相手方（多くは相手方の加入している保険会社）と対等に交渉するのはほぼ不可能であるため、事故対応サービス付きの保険（学研災付帯学生生活総合保険）への加入を強く推奨しているところである。

(留学生・国際交流センター事務室)

2.4 支援活動

(1) 留学生アドバイザー

本学在学生による組織で、日本人学生と外国人留学生間の交流促進のため、各種イベントを企画・実施している。メンバーには、留学経験者・留学予定者の他、既に日本で生活している外国人留学生も含まれており、センターが実施する留学生関連の交流会や、留学生の生活上のサポート等に協力するなど、幅広く精力的に活動している。

(2) チューター

外国人留学生に対し、学習・研究指導（予習・復習の手伝い）を中心に、日本語指導、日常の世話（学内外の案内、諸手続き、買い物、宿舎探しの補助等）を行う。支援を必要とする留学生ごとに、所属学部・研



究科や出身国、語学力等を勘案し、チューター1名を割り当てている。チューターは、指導教員の判断により必要と認められる期間（大学院生・研究生の場合は入学後最初の1年以内、学部生の場合には最初の2年以内）配置される。

（留学生・国際交流センター事務室）

2.5 各種オリエンテーション

外国人留学生に対しては、交換留学生や学部新入学生を対象に、宇都宮大学において勉学する際に必要な日本語科目、基盤教育関係科目、日本での生活をする上での諸注意等に関するオリエンテーション及び説明会等を以下の通り実施した。

(1) 国際交流会館入居説明会

- ①日 時：平成31年4月3日（水）15：00～
- ②場 所：国際交流会館集会室
- ③内 容：国際交流会館における生活上の留意事項

(2) 4月来日留学生（学部留学生を除く）オリエンテーション

- ①日 時：平成31年4月4日（木）11：30～12：30（レベルチェック）、
14：30～18：10（講和、初級・中級授業説明）
4月8日（月）14：00～15：00（上級授業説明）
- ②場 所：峰キャンパス 4A35 教室
- ③内 容：1) 横田センター長のお話 2) 教員の紹介 3) 職員の紹介
4) 日本で生活する際に注意すべき大事なこと 5) 授業登録及び授業スケジュール等
6) 日本語の授業について 7) 中級日本語短期留学プログラム説明会



来日留学生歓迎会（4月）

(3) 4月来日留学生生活上の留意事項説明会

- ①日 時：平成31年4月8日（月）15：30～17：00
- ②場 所：峰キャンパス 4A35 教室
- ③内 容：1) 留学生・国際交流センター長挨拶 2) 日本で生活する際に注意すべき大事なこと
3) 交通の決まり、防犯について（宇都宮東警察署から）

(4) 4 月来日留学生歓迎会

- ①日 時：平成 31 年 4 月 8 日（月）17：15～18：30
- ②場 所：大学会館 1 階食堂
- ③内 容：1) 学長及び関係教員挨拶 2) 新規来日留学生自己紹介 3) 懇談

(5) 学部新入学生オリエンテーション

- ①日 時：平成 31 年 4 月 10 日（水）17：45～18：20
- ②場 所：峰キャンパス 4A35 教室
- ③内 容：1) 留学生・国際交流センター長挨拶 2) 留学生日本語科目について
3) 大学生活について

(6) 国際交流会館退去説明会

- ①日 時：令和元年 7 月 12 日（金）15：00～16：00
- ②場 所：国際交流会館集会室
- ③内 容：1) 航空券の手配 2) 国際交流会館での退去各種手続
3) 国際交流会館以外での各種手続

(7) 令和元年度交換留学生のための大学院進学説明会

- ①日 時：令和元年 7 月 31 日（水）16：10～16：40
- ②場 所：峰キャンパス国際交流学習室
- ③内 容：1) 留学生・国際交流センター副センター長挨拶 2) 各研究科の紹介
3) 各研究科の入試日程等

(8) 10 月来日留学生オリエンテーション

- ①日 時：令和元年 9 月 30 日（月）13：00～16：50
- ②場 所：峰キャンパス国際交流学習室
- ③内 容：1) 横田センター長のお話 2) 教員の紹介 3) 職員の紹介
4) 日本で生活する際に注意すべき大事なこと 5) 授業登録及び授業スケジュール等
6) 日本語の授業について 7) 日本語・日本文化研修プログラム説明会
8) 中級日本語短期留学プログラム説明会

(9) 国際交流会館入居説明会

- ①日 時：令和元年 9 月 26 日（木）9：00～10：00
- ②場 所：国際交流会館集会室
- ③内 容：国際交流会館における生活上の留意事項

(10) 10 月来日留学生生活上の注意事項説明会

- ①日 時：令和元年 10 月 1 日（火）16：10～17：30
- ②場 所：峰キャンパス 4A31 教室
- ③内 容：1) 留学生・国際交流センター長挨拶
2) 交通のきまり、防犯について（宇都宮東警察署から）

3) 日本で生活する際に注意すべき大事なこと

(11) 10月来日留学生歓迎会

①日 時：令和元年10月1日（火）17：30～19：00

②場 所：峰ヶ丘講堂

③内 容：1) 学長及び関係教員挨拶 2) 新規来日留学生自己紹介 3) 懇談

(12) 国際交流会館退去説明会

①日 時：令和2年1月17日（金）15：00～16：00

②場 所：国際交流会館集会室

③内 容：1) 航空券の手配 2) 国際交流会館での退去各種手続
3) 国際交流会館以外での各種手続

(留学生・国際交流センター事務室)



来日生歓迎会（10月）

3 留学生交流支援

3.1 栃木県地域留学生交流推進協議会

本協議会は、栃木県における留学生等の円滑な受入の促進と交流活動の推進を図り、地域住民の国際理解に寄与するために設立されたもので、県内の高等教育機関、国の機関、地方公共団体、経済団体及び国際交流団体等で構成されている。本学が事務局となっており、本年度は6月に総会、2月に運営委員会を開催した。

(1) 栃木県地域留学生交流推進協議会総会

- ①開催日時：令和元年6月13日（木）15：30～
- ②議 題：1) 平成30年度栃木県地域留学生交流推進協議会実施事業について
2) 平成30年度本推進協議会実施事業経費決算について
3) 令和元年度本推進協議会実施事業計画（案）について
4) 令和元年度本推進協議会実施事業経費予算（案）について
5) 令和元年度本推進協議会感謝状贈呈候補者（案）について
6) その他
- ③報告事項：1) 平成30年度県内各種団体等による主な外国人留学生交流・支援事業について
2) 本推進協議会事業会計に係る平成30・令和元年度監査員について
3) その他

(2) 栃木県地域留学生交流推進協議会・運営委員会

本運営委員会は、栃木県地域留学生交流推進協議会規約（以下「協議会規約」という。）第8条第2項の規定に基づき設置され、協議会規約第3条に規定する協議事項について、具体的な実施方策を協議している。

- ①開催日時：令和2年2月27日（木）15：30～
- ②議 題：1) 令和元年度本推進協議会実施事業について
2) 令和元年度本推進協議会実施事業経費決算について
3) 令和2年度本推進協議会実施事業計画（案）について
4) 令和2年度本推進協議会実施事業経費予算（案）について
5) 令和2年度本推進協議会感謝状贈呈候補者（案）について
6) その他
- ③報告事項：1) 令和元年度県内各種団体等による主な外国人留学生交流・支援事業について
2) 本推進協議会事業経費に係る令和2・3年度監査員について
3) その他

(3) 留学生指導教員及び事務担当者研修会

本研修会は、栃木県内の大学、短期大学、高等専門学校において、留学生に対する教育、指導・相談を担当する教職員が一同に会し、留学生の受入・派遣における教職員相互の協力のあり方等について討議することにより、今後の留学生指導・支援の充実に資することを目的として、本「推進協議会」が開催するものである。本年度は、以下のとおり研修会を実施した。

- ①開催日時：令和元年11月27日（水）13：30～15：30
- ②講 義：1) 留学ビザの現状等について
2) 在留資格・特定技能について
3) 在留資格・留学から特定技能への変更について

- 4) 卒業後の就職にあたり、特定技能への在留資格変更を強く希望する学生がいた場合に学校が支援できること、留意すべきことについて
- ③情報交換：
- 1) 留学生の在留管理、在留資格について
 - 2) 短期留学生の学内での取り扱いについて
 - 3) 在籍確認の報告のやり方について
 - 4) 留学生と日本人学生との交流について
 - 5) 留学生への特別配慮について
 - 6) 不登校の留学生を出さない為の方策、不登校になってしまった留学生の対応などに関する大学独自の取組みについて
 - 7) 留学生と地域社会との交流や、留学生の地域社会への参加取組（協働）事例について
 - 8) 留学生の募集方法（留学生を引きつけるような魅力）について
 - 9) 留学生が日本の大学を卒業するメリットについて
 - 10) アルバイトによる学業への影響について
 - 11) その他情報交換

3.2 交流支援事業

(1) 令和元年度新規留学生のためのガイダンス及び懇親ティーパーティー

①開催日時：令和元年5月25日（土）10：30～14：00

②実施内容：

地域留学生交流推進協議会及び公益財団法人栃木県国際交流協会共催による令和元年度新規留学生のためのガイダンス及び懇親ティーパーティーを開催し、留学生及び関係者約50名が参加した。

(2) 令和元年度留学生との交流会

①開催日時：令和元年6月13日（木）17：00～18：30

②実施内容：

宇都宮大学内において地域留学生交流推進協議会主催による交流会を開催し、県内高等教育機関に在籍する留学生約60名、栃木県地域留学生交流推進協議会構成員及び宇都宮大学教職員等計約20名が参加した。



懇親ティーパーティー



留学生との交流会

(3) 外国人留学生と地域交流団体等との交流会

国際理解、異文化交流の推進に寄与するため、留学生への日本文化の紹介・体験、異文化交流等を毎年行っている。本年度は、モンゴル、メキシコ、イギリス、スロバキアなど17カ国からの留学生、日本文化活動をする地域住民や本学学生サークル、および教職員等多くの参加を得て実施した。

①開催日時：令和元年12月12日（木）13：30～15：30

②場 所：大学会館（和室・トークルーム・談話室）

③参加者数：留学生22名、交流団体等24名



日本文化体験（和服の着付け）



日本文化体験（折り紙）



日本文化体験（華道）



日本文化体験（茶道）

（以上、留学生・国際交流センター事務室）

3.3 小・中・高等学校での国際交流

栃木県内の小・中・高校からの要請により、本学の留学生を各学校の授業にゲストとして派遣し、交流や対話の場を提供している。留学生と児童・生徒が直接触れ合う国際交流を通じて、留学生にとっても日本の児童・生徒にとっても、異文化理解や異文化コミュニケーションを図る上での貴重な機会となっているとの評価が各学校から寄せられている。交流内容は様々であるが、予め派遣する留学生の国籍を伝えておくことで、児童・生徒にその国について予習させることができ、交流時には予習した知識から留学生に多くの質問が活発に寄せられる。留学生にとっても母国の良さを改めて感じる良い機会となっている。交流当日のみならず、その後も電子メール等で連絡を取り合い、長期的な交流ができていている学校もある。

<交流実績：計4件>

1) 宇都宮大学教育学部附属小学校

日 程：令和元年5月17日（金）

派遣人数：留学生19名

交流内容：小学生と会食（給食体験）小学生による日本文化の発表見学

2) 栃木県立栃木翔南高等学校

日 程：令和元年12月10日（火）

派遣人数：留学生5名

交流内容：日本語で母国のプレゼンテーション発表、ディスカッション

3) 栃木県立宇都宮高等学校

日 程：令和元年12月16日（月）

派遣人数：留学生7名

交流内容：日本語で母国のプレゼンテーション発表、ディスカッション

4) 宇都宮大学教育学部附属中学校

日 程：令和2年2月13日（木）

派遣人数：留学生5名

交流内容：自国の中学生の学習についてプレゼンテーション発表、ディスカッション

（留学生・国際交流センター事務室）



宇都宮高校（授業の様子）



宇都宮高校（授業後の集合写真）

4 留学生の獲得施策

4.1 日本留学フェアなどへの参加

留学生・国際交流センターでは、日本学生支援機構（JASSO）主催による日本留学フェアに毎年参加している。本年度は、台湾、韓国、ベトナムの3ヶ国を訪問し、各国で開催された日本留学フェアに本学の教職員を派遣したほか、各国の協定校などを訪問し、意見交換を図る機会をもった。

(1) 台湾

1) 主催等

- ①主催：独立行政法人日本学生支援機構
- ②共催：全国専修学校各種学校総連合会、公益社団法人東京都専修学校各種学校協会
- ③後援：公益財団法人日本台湾交流協会、台湾日本関係協会、高雄市政府教育局
- ④協力：日本奨学金留学生联谊会、財団法人言語訓練測驗中心

2) 開催地域（都市）

台湾（高雄・台北）

3) 会場概要

①会場・日時

i) 高雄会場

日時：令和元年（2019年）年7月20日（土）11時00分～17時00分

会場：高雄展覽館（高雄市前鎮区成功二路39号（北館N1））

ii) 台北会場

日時：令和元年（2019年）年7月21日（日）10時45分～17時00分

会場：台北世界貿易中心（台北市信義路五段五号（展覽大樓2階H区））

②参加機関数

大学・機構等 高雄 36 機関、台北 67 機関、両会場とも専門学校等 128 校

③対象者・来場者数

高校生・大学生等留学希望者、高校等の進路指導担当教員、大学等の国際交流担当者等

高雄：935名（前年度1,250名）

台北：2,853名（前年度3,210名） 合計：3,788名（前年度4,460名）

④開催概要

i) 資料の展示・配付

参加機関ブースにおける学校案内、募集要項、シラバス等の資料展示及び配付

ii) 個別相談

各参加機関の教育内容、入学試験、特色等に関する個別相談の実施

iii) セミナー

主催者等による日本留学概要、日本政府奨学金の説明及び日本留学経験者による体験談等の発表

4) 本学概要

①参加者：松金 公正（国際学部教授）

沖杉 礼子（留学生・国際交流センター事務室留学生係主任）

阿部ひかり（留学生・国際交流センター事務室留学生係事務補佐員）

②本学ブース来場者数 高雄会場 25名、台北会場 35名

③配付資料・閲覧用資料

・学校案内（日本語版・英語版）

- ・地域創生科学研究科パンフレット
- ・研究生出願概要（A4 両面刷 1 枚・日本語及び英語にて記載）
- ・各学部パンフレット
- ・入試募集要項

④主な相談内容

- ・自分が勉強したい分野・コース、研究内容の有無
- ・留学生寮の有無
- ・入試内容
- ・奨学金・授業料免除の内容 等

⑤所感

- ・長時間熱心に説明を求める学生が多く、特に参加者の多かった台北会場では、常にブース来訪者が絶えない状況であった。本学は、通訳 2 名（うち 1 名は台湾留学中の本学国際学部生）を加えた 5 名体制を基本とし、さらにブースを訪れた台湾在住の本学卒業生数人にも随時対応にあたっていただいた。
- ・英語での学位取得は可能かという質問が多くあり、英語開講科目の拡充が必要性感じた。
- ・保護者同伴のブース来訪者も複数見受けられた。また、保護者が日本留学経験者であるというケースも見られ、日本留学に対する素地の存在がうかがえた。
- ・多くの学生が奨学金についての情報を求めており、授業料免除に加えて経済面での支援の充実が必要であると実感した。
- ・本学が「THE 世界大学ランキングインパクト 2019」において、SDGs 部門国内 4 位である旨を説明すると、強い興味を示す来訪者が印象的であった。今後、留学生向け広報に THE や QS 等の国際ランキングの順位をより前面に押し出していくことが有益であると考えられる。
- ・台北・高雄会場とも本学卒業生（日本人、台湾人）が訪れ、大学紹介の補助をしてくれた。今後、帰国した元留学生及び現地で就業する卒業生との連携を図ることによって効果的な留学生招致活動につながると考える。



日本留学フェア（台湾・高雄）



日本留学フェア（台湾・台北）

5) 国立台湾師範大学訪問報告

これまで継続して交流活動を続けている大学間交流協定校であるため訪問し、現状及び課題について意見交換を行い、今後の研究交流、及び学生交流について意見交換を行った。

①日時・場所

日時：7月22日（月）9:30～12:00

場所：国立台湾師範大学

②面会者

林禹致（Student Mobility Manager）

林姿甫（Student Mobility Manager）

張雅涵（Global Partnership Coordinator）

③内容

- ・ 本学共同教育学部設置等、組織改組に関する説明
- ・ 交換留学におけるインターンシップの実施状況に関する意見交換
- ・ 下記短期研修に関する情報交換
- ・ 研究交流に関する情報交換
- ・ 中国語教育センター視察



協定校訪問（国立台湾師範大学）

(2) 韓国

1) 主催等

①主催：独立行政法人日本学生支援機構

②共催：全国専修学校各種学校総連合会、公益社団法人東京都専修学校各種学校協会、社団法人韓日協会、社団法人釜山韓日交流センター

③後援：在大韓民国日本国大使館、在釜山日本国総領事館

④協力：独立行政法人国際交流基金ソウル日本文化センター

2) 開催地域（都市）

大韓民国（プサン・ソウル）

3) 会場概要

①会場・日時

i) プサン

日時：2019年9月28日（土）9:40～16:00

会場：Busan Exhibition & Convention Center
(BEXCO)

(プサン広域市海雲台区 APEC 路 55 番地)

ii) ソウル

日時：2019年9月29日（日曜日）9:40～16:00

会場：COEX（ソウル特別市江南区永東大路 513 番地）

②参加機関数

プサン：69 大学・専門学校・機関等

ソウル：92 大学・専門学校・機関等

③対象者・来場者数

高校生・大学生等留学希望者、高校等の進路指導担当教員、大学等の国際交流担当者等

プサン：1,640 名（前年度 2,450 名）



日本留学フェア（韓国・ソウル①）

ソウル：3,080名（前年度 4,560名）

合計：4,720名（前年度 7,010名）

④開催内容

i) 資料の展示・配付

参加機関ブースにおける学校案内、募集要項、シラバス等の資料展示及び配付

ii) 個別相談

各参加機関の教育内容、入学試験、特色等に関する個別相談の実施

iii) セミナー

主催者等による日本留学概要、日本政府奨学金の説明及び日本留学経験者による体験談等の発表

4) 本学概要

①参加者：房 相佑（農学部教授）

松本 晴朗（留学生・国際交流センター事務室留学生係長）

②本学ブース来訪者数

プサン 40名（国際、工希望がそれぞれ全体の4割）

ソウル 60名（国際4割、農・工がそれぞれ全体の3割）

③配布資料・閲覧用資料および④主な相談内容

前記の「台湾」に同じ

⑤所感

- ・教育学部への進学希望者について、教育実習や国籍による公立中学校等での就職の難しさ等を説明し、非常に難しい見通しである旨を説明しても断固として教育学部への進学希望を崩さないため、何故なのか確認したところ、単にEJU（日本留学試験）の科目数が少ないということだけであった。本人は全く教員になりたくないとのこと。同様に、「物理が良い点だったので、物理のみで合格できる大学を探している」という学生もおり、とにかく日本の大学へ進学できれば良く、教育学部でもなんでも卒業すれば良いという考えの者が多かった。
- ・今回は韓国籍であり、韓国育ちである房教授と参加したため、来訪者への説得力やウケがよかった。釜山では現在釜慶大学から本学へ交換留学中の文さんにも通訳として参加してもらったが、これも好評でした。



日本留学フェア（韓国・プサン）



日本留学フェア（韓国・ソウル②）

5) 釜慶大学訪問

部局間交流協定校（協定先：国際学部）である釜慶大学に訪問した。

①日時・場所

日時：9月28日（土）

場所：釜慶大学国際交流事務所

②内容

意見交換、互いの状況確認、他大学との受入・派遣状況、両校での他行事への可能性について。



協定校訪問（釜慶大学国際交流事務所）

(3) ベトナム

1) 主催等

①主催：独立行政法人日本学生支援機構

②共催：ベトナム元日本留学生協会（JAV）、在ホーチミン日本国総領事館

③後援：後援在ベトナム日本国大使館、独立行政法人国際交流基金ベトナム日本文化交流センター、越日友好協会、JICA ベトナム事務所

④協力：ベトナム教育訓練省国際協力教育局、ハノイ国家大学ハノイ外国語大学、ハノイ貿易大学、ホーチミン市人文社会科学大学、ホーチミン市師範大学、ベトナム日本人材開発インスティテュート、在ホーチミン市元日本留学生クラブ（JUACH）

2) 開催地域（都市）

ベトナム（ホーチミン・ハノイ）

3) 会場概要

①会場・日時

i) ホーチミン

日時：2019年10月5日（土）9:00～15:30

会場：REX Hotel（141 Nguyen Hue Boulevard, District 1, Ho Chi Minh City）

ii) ハノイ

日時：2019年10月6日（日）9:00～15:30

会場：Lotte Hotel Hanoi（54 Lieu Giai Street, Cong Viward, Ba Dinh District, Hanoi）

②参加機関数

ホーチミン：47 大学、18 専門学校・日本語教育機関、5 その他教育機関等、JASSO

ハノイ：55 大学、20 専門学校・日本語教育機関、6 その他教育機関等

③対象者・来場者数

ホーチミン 1,738 名（前年度 1,719 名）

ハノイ 1,921 名（前年度 1,708 名）

合計 3,659 名（前年度 3,427 名）

④開催内容

i) 開会式：主催者挨拶、共催者挨拶、来賓等紹介、テープカット、集合写真

ii) 個別コンサルテーション

JASSO、在ベトナム日本大使館、ベトナム元日本留学生協会、参加大学等ブース

iii) 全体セミナー

日本留学概要説明、日本政府奨学金について、日本留学試験概要説明、帰国留学生体験談

iv) 日本留学クイズ（主催：JASSO）

4) 本学概要

①参加者：グエンミンハイ（地域デザイン科学部助教）

神戸 幸（留学生・国際交流センター事務局国際交流企画係長）

②本学ブース来訪者数：ホーチミン 45 名、ハノイ 36 名

・希望学部を定めず高校生相当が進学相談としてブースに来る件が過半。

・希望学部が決まっている高校生や大学生は、国際・工・農・地デザで概ね按分

③配布資料・閲覧用資料および④主な相談内容

前記の「台湾」及び「韓国」に同じ。

④所感

- ・若干名だが、日本人のベトナム駐在員が親子で来場した。うち、ホーチミン会場来場の1名は父親が国連職員で娘が国際学部を志望だった。一方、ハノイ会場では本学に子供を進学させたいが本学の知名度が低いために親戚に反対された、といった話を伺った。なお、ベトナム人の来場者も、本学の所在地や学部構成の質問がまずであった。日本国内の入試広報でも同様だろうが、本学は知名度向上が引き続きの大きな課題と思われる。
- ・若干名、日本語能力と専門科目の修得・理解が深く、大学院進学先として日本を検討しているという来場者があった。専門は、農業経済、情報工学、化学等だった。ただし、各大学の奨学金制度などは大学院の選択を大きく左右する。
- ・子供のみで来場している場合は、概ね一般的な進学相談に終始した。経済の学士号や修士号をとりたいたい、本学は英語授業のみを受講して卒業できるか、といった質問があった。
- ・親子で来場している場合は、留学時の修学環境や居住環境（治安・物価等）、授業料や奨学金の有無、アルバイトの可否についての質問があった。これらは、日本国内での進学フェアや本学オープンキャンパスの来場者とあまり変わらない印象だった。
- ・少数であるが、日本語を教育する高校もあった。元々日本に留学希望の高校生は外部の日本語学校を通う場合が多い。ベトナム国内で日本語学校の数は急増していることを実感した。



日本留学フェア（ハノイ）



日本留学フェア（ホーチミン）

5) ハノイの教育機関訪問

9月7日(月)、JASSO 主催(委託先:株式会社 GES)で、貿易大学、High School of Education and Science、国民経済大学を見学したほか、各校副学長等と懇談した。日本側の参加者は、北海道大学、九州大学、南山大学、北陸大学ほかであった。

(留学生・国際交流センター事務室)



ハノイの教育機関訪問(貿易大学)

4.2 外国人留学生のための進学説明会

日本学生支援機構(JASSO)は、「外国人学生のための進学説明会」を東京および大阪で年に1回ずつ主催している。この説明会は、日本の日本語教育機関等に在籍し、大学等への進学を目指している外国人留学生を主な対象として、進学希望にあった大学等を選択できるように、全国から大学等が参加して、入試情報をはじめ、教育・研究上の特色等に関する最新の確かな情報の提供を行うものである。留学生・国際交流センターでは、この説明会を外国人留学生獲得のための重要施策のひとつと位置づけ、毎年教職員を派遣している。本年度は東京会場にのみ派遣した。

1) 実施概要(東京会場)

- ①日 時: 令和元年7月6日(土) 10:00~16:00
- ②場 所: サンシャインシティ文化会館 2F サンシャイン展示ホール D
- ③主 催: 独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)
- ④参加機関: 183 機関(大学・短期大学 143、高等専門学校 1、専門学校 39)
- ⑤来場者数: 1,885 名(昨年度 1,867 名)

2) 本学ブース

- ①担当者: 湯本 浩之(留学生・国際交流センター教授)
松本 晴朗(留学生・国際交流センター事務室留学生係長)
伊藤 崇人(アドミッションセンター事務室係員)
- ②来訪者数: 80 名

(留学生・国際交流センター事務室)

4.3 日本語学校等を会場とした外国人学生のための進学説明会

(1) 実施概要

2019 年度は以下の 6 会場に教職員を派遣し、進学説明会に参加した。

- A 6月24日(月) 大学進学フェア for エリート日本語学校
- B 6月27日(木) 大学・大学院フェア@JET日本語学校
- C 7月29日(月) 大学・大学院フェア@ABK(アジア学生文化協会日本語コース+ ABK日本語学校進学説明会)
- D 9月2日(月) 国公立大学・大学院フェア in 長沼スクール
- E 9月11日(月) 大学・大学院進学フェア@ARC 東京日本語学校

F 9月17日(火) 国公立大学・大学院進学フェア@東京早稲田外国語学校

(2) 主な相談内容

各進学説明会での主な相談内容は、以下の通りであった。

- ・留学生の進路希望別の教育内容、本学研究科や学部の教育内容
(情報工学、日本文学、国際学、微生物学、電気工学、教育学、MBA取得、建築学等)
- ・受験資格(特に日本語能力試験やTOEICの必要点数)
- ・入学試験概要(私費外国人特別入試)、入試日程、オープンキャンパスの有無
- ・授業料等入学及び在籍に必要な金額、奨学金、学生寮の有無
- ・住宅(寮、アパート)事情、
- ・大学の地理的位置、東京からのアクセス
- ・英語による授業受講の可否、英語のみの受講で卒業単位が取得できるか

(3) 各進学説明会の実施概要

A: 大学進学フェア for エリート日本語学校

1) 実施概要

- ①日時: 令和元年6月24日(月) 10:40～15:30
- ②場所: エリート日本語学校(東京都新宿区百人町)
- ③主催: (株) キュートジャパン
- ④参加大学: 電気通信大学及び本学、他6校

2) 本学ブース

- ①担当者: 田崎正憲(留学生・国際交流センター事務室長)
- ②来訪者数: 31名(うち10名資料のみ) 国籍は、中国9割、韓国1割。

B: 大学・大学院フェア@JET日本語学校

1) 実施概要

- ①日時: 令和元年6月27日(木) 12:50～14:15
- ②場所: JET日本語学校4F教室(東京都北区)
- ③主催: (株) キュートジャパン
- ④参加大学: 横浜国大学、中央大学、武蔵大学、上智大学。

2) 本学ブース

- ①担当者: 横田信三(留学生・国際交流センター長)
田崎正憲(留学生・国際交流センター事務室長)
- ②来訪者数: 12名(大学院4、学部8〔理系4、文系4〕)

C: 大学・大学院フェア@ABK(アジア学生文化協会日本語コース+ABK学館日本語学校)

1) 実施概要

- ①日時: 令和元年7月29日(月) 16:30～18:00
- ②場所: アジア学生文化協会地下ホール(東京都文京区本駒込)
- ③主催: (株) キュートジャパン

2) 本学ブース

- ①担当者: 湯本浩之(留学生・国際交流センター教授)
田崎正憲(留学生・国際交流センター事務室長)
- ②来訪者数: 8名

D：国公立大学・大学院フェア in 長沼スクール

1) 実施概要

- ①日時：令和元年9月2日（月）12:30～14:00
- ②場所：（学）長沼スクール東京日本語学校1号館
フォーラム・2号館ホール（東京都渋谷区）
- ③主催：（株）キュートジャパン
- ④参加大学：山形大学、福島大学、信州大学、島根大学、
横浜国立大学、横浜市立大学、豊橋技術
科学大学、東京農工大学、電気通信大学、
宇都宮大学。



国公立大学・大学院フェア in 長沼スクール

2) 本学ブース

- ①担当者：出羽尚（国際学部准教授）
神戸幸（部留学生・国際交流センター事務室国際交流企画係長）
- ②来訪者数：14名（国籍：モンゴル12、キルギス1、ベトナム1）

E：大学・大学院進学フェア@ ARC 東京日本語学校

1) 実施概要

- ①日時：令和元年9月11日（水）12:30～14:00
- ②場所：ARC日本語学校8F（東京都文京区後楽）
- ③主催：（株）キュートジャパン

2) 本学ブース

- ①担当者：飯塚明子（留学生・国際交流センター助教）
松本晴朗（留学生・国際交流センター事務室留学生係長）
- ②来訪者数：9名（大学院4〔工3、農1〕）、学部5〔地1、教1、農2、工1、国籍は、中国2、ベトナム2、
ウズベキスタン1〕）

F：国公立大学・大学院進学フェア@東京早稲田外国語学校

1) 実施概要

- ①日時：令和元年9月19日（木）11:20～12:50
- ②場所：東京早稲田外国語学校（東京都新宿区歌舞伎町）
- ③主催：（株）キュートジャパン

2) 本学ブース

- ①担当者：三田妃路佳（地域デザイン科学部准教授）
松本晴朗（留学生・国際交流センター事務室留学生係長）
- ②来訪者数：7名（大学院2〔工1・教1〕）、学部5〔国3、工1、農1〕、国籍はすべて中国）
（留学生・国際交流センター事務室）



4. 4 国費学部留学生への大学進学説明会

日本の大学の学部進学のための予備教育として、日本語や専門領域科目を履修している国費学部留学生を対象とした大学進学説明会が、東京外国語大学の留学生日本語教育センターと大阪大学の日本語日本文化教育センターで毎年1回ずつ開催されている。本年度は、東京外国語大学で開催された同説明会に教職員を派遣し、本学の概要を紹介したほか、大学別ブースにて個別相談を実施した。

(1) 実施概要

- ①日時：令和元年10月25日（金）13：00～17：00
- ②場所：東京外国語大学留学生日本語教育センター
- ③参加機関：21校（文系10校+理系11校）
北海道大学、東北大学、筑波大学、横浜国立大学、一橋大学等、主に東日本を中心とした国立大学が参加。
- ④参加留学生数：参加留学生数：56名（文系27名+理系29名）
主な国籍（韓国7／インドネシア・タイ・ブラジル6／モンゴル4等）
- ⑤プログラム：文系・理系に分かれて、パワーポイントで大学紹介を行った後（1大学7分以内）、各大学ブースにて個別に説明を行った。

(2) 本学ブース

- ①担当者：横田 信三（留学生・国際交流センター長）
沖杉 礼子（留学生・国際交流センター事務室留学生係主任）
 - ②来訪者：7名（志望学部：地域デザイン科学部1名、国際学部4名、農学部1名、工学部1名）
 - ③所感
 - ・最大同時来訪者数2名。本学側配置人員として、2名は必要。
 - ・ノートPCで本学ウェブサイトを見せながら説明を行った。次回もノートPCまたはタブレットの持参が望まれる。
 - ・本学資料に関し、ブース来訪者に手渡すのみであり、参加者全員に配布する時間・機会はない。本学ガイドブック（日・英版）及び教員専門分野一覧各10部程度が適正送付数であると思われる。
- （留学生・国際交流センター事務室）

4. 5 交換留学生のための大学院進学説明会

本学への交換留学生の本学各研究科への留学を奨励し、その教育・研究の特色や入試内容・日程等に関する情報を提供する目的で、留学生・国際交流センターでは、平成23年度から「交換留学生のための大学院進学説明会」の開催を実施してきている。平成31年度の実施概要は以下の通りである。

<実施概要>

- ①日 時：平成30年7月31日（水）16：10～16：25
- ②場 所：5号館C棟国際交流学習室
- ③参加者：本学に在籍している交換留学生（特別聴講生）
- ④内 容：
 - 1) 開会挨拶および新大学院の紹介：湯本浩之（留学生・国際交流センター副センター長）
 - 2) 質疑応答

（湯本）

4. 6 宇都宮大学サテライトオフィス

(1) 交換留学生の支援・指導

平成 31 年度交換留学生として 2 名の学生（国際学部 3 年生及び農学部 2 年生）が、8 月よりカセサート大学での留学生生活を開始した。サテライトオフィスでは、両人と頻繁に連絡をとり、勉学・生活について適宜助言・指導を行った。英語でのコミュニケーション力向上のため、毎月 1 度以上メールにて、活動状況を英語で報告するよう指導してきた。

留学期間は 2020 年 5 月までの予定であったが、新型コロナ流行のため、両名とも 3 月に帰国を余儀なくされた。

(2) 宇大学生グループのタイ訪問の支援

宇大の学生サークル“ナムチャイ”のメンバー 15 名が、昨年に引き続き 2020 年 2 月に訪タイした。毎年恒例のシーサケート県での絵本寄贈の活動ののち、カセサート大学でも授業参観や学生交流、NGO との情報交換を実施したいとの要望で、そのための種々の便宜提供、事前調整等を行った。



ナムチャイメンバーのサテライトオフィス訪問



最後の夜のタイ式バーベキューパーティー

(3) カセサート大学創立 77 周年事業への参加

2020 年 2 月 2～3 日、カセサート大学創立 77 周年の記念事業が開催され、宇大を代表して夏秋副学長とともにサテライトオフィスから後藤特命教授が事業に参加した。



カセサート大学長と夏秋副学長



集合写真（左から後藤特命教授、丸山遥〔交換留学生〕、夏秋副学長、Damrong 副学長〔宇大 OB〕、澤田琴乃〔交換留学生〕）

(4) 宇大同窓会 UU-AA Thailand の活動支援

交換留学生（押野拓也）が留学期間を終えるにあたり、バンコク在住の日本人同窓生による歓送会が開かれた。後藤特命教授も参加して、同窓生との情報交流を行った。

また、UU-AA Thailand 第2回総会の開催に向けて、会長の Dr. Narongchai および日本人同窓生代表の大畑美優紀氏とともに準備を進めた。



バンコク在住同窓生による交換留学生の歓送会

(5) 宇大学生の海外インターンシップ実施に関する支援

農学部3年生2名が海外インターンシップをタイで行いたいとの希望があり、受け入れ先としてカセサート大学の Doi Pui リサーチステーション（チェンマイ県）を手配した。9月に訪タイし（農学部福村准教授引率）、同リサーチステーションにて2週間のインターンシップを行った。後藤特命教授も福村准教授とともにバンコクからチェンマイまで同行し、受け入れ先に挨拶した。

また福村准教授が来年度以降の海外インターンシップの受け入れ先を確保することに努めており、バンコク在住の宇大同窓生の勤務先を候補として考えていることから、宇大同窓生との会談の場を設けた。



交換留学生を交えたインターン学生との会食

(6) 宇大同窓生のタイ国研修に対する支援

2020年1月末に宇大同窓生2名（農学部、2018年卒）の訪タイにあたり、現地情報提供、旅程作成などの支援を実施した。

(7) カセサート大学農学部の国際プログラムにおける日本人教員による授業提供の準備

カセサート大学農学部の国際教育プログラム“Tropical Agriculture（熱帯農業）”について、開講科目や履修学生人数などの情報・データを収集するとともに、宇大教員を含む日本人教員による同プログラムにおける授業提供について、農学部長および副学部長らと検討を行った。その結果、2020年度8月学期または1月学期に“Selected Topics（特別講義）”の枠で宇大農学部教員3名による授業を開講し、翌2021年度に正式の科目名を持った授業として立ち上げる方向を確認した。

しかしながらその後、新型コロナウイルスの蔓延によって、2020年度の開講は難しい状況となっており、今後さらに調整検討を行う予定である。



宇大同窓生（大部勝氏、橋本圭司氏）との会食

(後藤)

5 日本人学生の海外派遣留学の推進・支援

5.1 海外留学説明会

グローバル人材の育成が叫ばれている今日、留学生・国際交流センターでは、海外に目を向け、交換留学はもちろん、短期の語学留学などに積極的にチャレンジしようとする学生を育成するため、学生に対する様々な説明会を開催した。入学式後の保護者ガイダンス・新入生ガイダンスにおいては留学情報や各種留学説明会のアナウンスを行った。その後、全学生を対象とした各種留学プログラムの説明会を実施し、学生の海外への意識付けを行った。

(1) 保護者向け留学情報説明会

- ①日 時：平成 31 年 4 月 3 日（水）
- ②場 所：各学部
- ③内 容：1) グローバル教育プログラムについて
2) 各種留学プログラム・奨学金について
3) 海外英語研修（オーストラリア・マレーシア）について
4) 国際インターンシップ・国際キャリア教育プログラムについて
5) 各種留学説明会の日程について

(2) 学部新入生向け留学情報説明会

- ①日 時：平成 31 年 4 月 8 日（月）
- ②場 所：各学部
- ③内 容：1) グローバル教育プログラムについて
2) 各種留学プログラム・奨学金について
3) 海外英語研修（オーストラリア・マレーシア）について
4) 国際インターンシップ・国際キャリア教育プログラムについて
5) 各種留学説明会の日程について

(3) 海外留学説明会

- ①日 時：平成 31 年 4 月 18 日（木）17：50～19：00
- ②場 所：峰キャンパス 5B11 教室
- ③内 容：1) 私費留学について 2) 海外英語研修について

(4) 交換留学説明会

- ①日 時：令和元年 6 月 27 日（木）17：50～18：55
- ②場 所：峰キャンパス 5B11 教室
- ③内 容：1) 交換留学制度に関する各種説明
2) 留学と就活について
3) 単位認定制度について
4) 留学体験報告

(5) 交換留学フェア

- ①日 時：令和元年 10 月 17 日（木）17：10～18：20
- ②場 所：UU プラザ 2 階コミュニティフロア
- ③内 容：交換留学からの帰国学生によるブース説明会

（留学生・国際交流センター事務局）



5.2 国際インターンシップ

宇都宮大学の「グローバル人材育成プログラム」の一環として、2014年度から、海外の企業の支社や事業所、NGOや教育機関等で就労体験を行う国際インターンシップを実施している。

8年目となる本年度は、夏期インターンシップに9名、春期インターンシップに4名の合計13名をベトナム、マレーシア、タイ、そして台湾の計4ヶ国の企業団体等7組織へインターン生として派遣することができた（下記「3）派遣実績」参照）。

留学生・国際交流センターでは、夏期及び春期の休暇中の約2～4週間の実習に先立ち、体験者の報告をはじめ、国際インターンシップの概要やその手続などの説明を目的とした報告・説明会を以下の通り開催した。



学生報告の様子

(1) 平成30年度春期「国際インターンシップ」報告会及び平成31年度夏期説明会

- ①日 時：平成31年4月24日（水）18：00～19：50
- ②場 所：宇都宮大学 UU プラザ2階 コミュニティフロア
- ③参加者数：学生79名 教職員10名 合計：89名
- ④内 容：（進行）湯本浩之（留学生・国際交流センター副センター長）
 - 1) 開会挨拶：横田信三（留学生・国際交流センター長）
 - 2) 平成30年度春期参加学生報告（7組11名）
 - ・ NPO 法人アプカス（スリランカ）：遠藤里桜・村上遥佳（地域デザイン科学部2年）
 - ・ ケラニア大学（スリランカ）：荒井寿美（国際学部2年）
 - ・ たんぽぽ保育園（ベトナム）：中村茉央・堀越桃奈（国際学部2年）
 - ・ フェ外国語大学（ベトナム）：永吉いずみ（国際学部2年）
 - ・ Insar Tours & Travel（マレーシア）：山崎香菜（国際学部2年）・野村佐和子（農学部2年）
 - ・ UNIMAS（日本語プログラム）（マレーシア）：中平恵（農学部2年）・刈屋陽菜（国際学部2年）
 - ・ UNIMAS（国際関係事務局）（マレーシア）：坂本成美（国際学部2年）
 - 3) 平成31年度夏期国際インターンシップ説明：栗原謙治（コーディネーター）
 - 4) 閉会挨拶：横田和隆（工学研究科教授）



春期募集ポスター

(2) 令和元年度夏期「国際インターンシップ」報告会及び春期説明会

- ①日 時：令和元年10月29日（火）18：00～19：50
- ②場 所：宇都宮大学 UU プラザ2階 コミュニティフロア
- ③参加者数：学生17名 教職員10名 合計：27名
- ④内 容：（進行）湯本浩之（留学生・国際交流センター副センター長）
 - 1) 開会挨拶：湯本浩之
 - 2) 令和元年度夏期国際インターンシップ参加学生報告（5組8名）
 - ・ Insar Tours & Travel（マレーシア）：小倉初菜（国際学部3年）・中野美波（農学部3年）
 - ・ Signart Design（ベトナム）：小川喬平（地域創生科学研究科1年）

- ・たんぽぽ保育園（ベトナム）：宇川梓（国際学部3年）・佐藤望生（地域デザイン科学部2年）
- ・フエ外国語大学（ベトナム）：金田日菜子（国際学部2年）
- ・株式会社キャム（タイ）：昀山泰陽（工学部3年）・高崎達也（国際学部3年）
- 3) 令和元年度春期国際インターンシップ説明：栗原謙治（コーディネーター）
- 4) 閉会挨拶：横田信三（留学生・国際交流センター長）

(3) 派遣実績

①令和元年度 夏期国際インターンシップ

	氏名	学部・研究科	学年	実習先企業	実習期間	実習国
1	金田 日菜子	国際学部	2	フエ外国語大学	9/9～9/27	ベトナム
2	矢吹 美帆	国際学部	3			
3	佐藤 望生	地域デザイン科学部	2	たんぽぽ保育園	9/3～9/20	ベトナム
4	宇川 梓	国際学部	3			
5	小倉 初菜	国際学部	3	Insar Tours & Travel	8/19～9/7	マレーシア
6	中野 美波	農学部	3		9/11～9/26	
7	高崎 達也	国際学部	3	株式会社キャム	9/2～9/22	タイ
8	昀山 泰陽	工学部	3			
9	小川 喬平	地域創生科学研究科	1	Signart Design	9/3～9/20	ベトナム

②令和元年度 春期国際インターンシップ

	氏名	学部・研究科	学年	実習先企業	実習期間	実習国
1	小寺 南歌	国際学部	4	Insar Tours & Travel	2/10～2/28	マレーシア
2	但野 杏	国際学部	2	台北城市科技大学	2/24～3/20	台湾
3	村山 波瑠	農学部	2			
4	松谷 虹佑	工学部	2	台湾近畿国際旅行社	2/14～3/6	台湾

(4) 国際インターンシップ・ワーキング・グループ（WG）の構成（平成31 / 令和元年度）

運営面では留学生・国際交流センター長をグループ長とする「国際インターンシップ・ワーキング・グループ（WG）」（下記「(4)」参照）が中心となり、応募者の面接や選考のほか、渡航前の各種手続き等への助言指導を行った。今後も引き続き危機管理体制の充実、受入団体等の拡充を図っていくこととしたい。

所属	氏名	所属部局	職名
グループ長	横田 信三	留学生・国際交流センター	センター長（兼農学部教授）
グループ員	中島 史郎	地域デザイン科学部	教授
	重田 康博	国際学部	教授
	吉田 一彦	国際学部	教授
	横田 和隆	工学部	教授
	福村 一成	農学部	准教授
	湯本 浩之	留学生・国際交流センター	副センター長
	飯塚 明子	留学生・国際交流センター	助教
	栗原 謙治	留学生・国際交流センター	コーディネーター
事務局	田崎 正憲	留学生・国際交流センター	事務室長
	神戸 幸	留学生・国際交流センター	係長
	長岡 陽子	留学生・国際交流センター	事務補佐員（4月まで）
	枝 千香	留学生・国際交流センター	事務補佐員（4月～5月）
	石塚 順彦	留学生・国際交流センター	事務補佐員（5月～6月）
	佐々木麻里	留学生・国際交流センター	事務補佐員（6月～10月）
	大坪 里紗	留学生・国際交流センター	事務補佐員（10月から）

5.3 海外渡航前危機管理オリエンテーション

留学生・国際交流センターでは、海外留学の推進を行うと同時に、複雑化する国際情勢や自然災害などから生じる危機について、学生一人一人の意識の涵養を図るため、「海外渡航前危機管理オリエンテーション」を開催している。これは、交換留学をはじめ、海外英語研修や国際インターンシップ等の大学主催プログラムで海外留学する学生に参加を義務付けるとともに、夏休みなど長期休業期間を利用して自ら海外に渡航する学生も対象としたものである。2019年度は、2019年7月と2020年1月の計2回実施した。

(1) 令和元（2019）年度第1回海外渡航前危機管理オリエンテーション

- ①日 時：令和元年7月18日（木）17：50～19：00
- ②場 所：峰キャンパス 5B11 教室
- ③内 容：1) 開会挨拶：横田信三（留学生・国際交流センター長）
2) 外務省ビデオ視聴1「なぜ君がねらわれるのか」
3) 講話：湯本浩之（留学生・国際交流センター副センター長）
4) 外務省ビデオ視聴2「海外へ渡航するあなたへ」
5) 外務省“たびレジ”登録推奨
6) 海外渡航・滞在時の諸注意と各種手続きについて：沖杉礼子（留学生・国際交流センター事務室）
7) 質疑応答

(2) 令和元（2019）年度第2回海外渡航前危機管理オリエンテーション

- ①日 時：令和2年1月15日（水）17：50～19：00
- ②場 所：峰キャンパス 5B21 教室
- ③内 容：1) 開会挨拶：横田信三（留学生・国際交流センター長）
2) 外務省ビデオ視聴「なぜ君がねらわれるのか」
3) 講話：湯本浩之（留学生・国際交流センター副センター長）
4) 海外渡航・滞在時の諸注意と各種手続きについて：沖杉礼子（留学生・国際交流センター事務室）
5) 質疑応答（留学生・国際交流課）

5.4 海外英語研修

(1) マレーシア・サラワク大学

宇都宮大学が大学間交流協定を結んでいる（2017年度締結）マレーシアのサラワク大学の協力を得て、2018年度から毎年2月に英語研修プログラムを実施している。本研修は、授業による英語能力の向上だけでなく、多民族国家であるマレーシアの自然環境豊かなボルネオ島サラワク州において、英語運用能力の高いサラワク大学生のバディと共に過ごす寮生活・課外活動を通じて、多文化共生や生物多様性などのテーマ理解を深めることも目的としたプログラムとなっている。



英語研修授業の様子①

①実施概要

- 1) 研修先: 国立マレーシア・サラワク大学 (UNIMAS)
- 2) 参加学生数: 学部生 31 名

<内訳>

学部: 地域デザイン 3 名 / 国際 11 名 / 教育 8 名 /
工学 3 名 / 農学 6 名

学年: 1 年生 16 名 / 2 年生 13 名 / 3 年生 2 名)

- 3) 引率教職員:

夏秋 知英 (副学長 研究・将来構想担当)

大久保達弘 (農学部)

出羽 尚 (国際学部)

天沼 実・山野 有紀 (教育学部)

高橋 俊守 (地域デザイン科学部)

飯塚 明子 (留学生・国際交流センター)

- 4) プログラム実施スケジュール

募集説明会: 10 月 23 日 (水)

募集期間: 10 月 24 日 (木) ~ 11 月 8 日 (金)

参加者選考・決定:

11 月末第 1 回事前研修: 12 月 26 日 (木)

海外渡航前危機管理オリエンテーション:

1 月 15 日 (水)

第 2 回事前研修: 1 月 22 日 (水)

講話「SDGs の視点からサラワクをみる」:

湯本浩之 (留学生・国際交流センター教授)

研修期間: 2 月 8 日 (土) ~ 2 月 24 日 (月)

オンライン研修報告会: 令和 2 (2020) 年 6 月 5 日 (金)

②研修概要

- 1) 英語研修:

サラワク大学言語コミュニケーション学部の英語の専門教員複数名による、アクティブラーニングを取り入れた集中英語研修 (平日 9:30 ~ 15:30) を 2 クラス設定。SDGs をテーマにして、事前研修で講習を行ったほか、研修授業にも SDGs を意識した内容を取り入れ、グループに分かれて行うプレゼンテーションも、SDGs をテーマに発表を行った。

- 2) Faculty Based Activity (専門分野別活動):

参加学生の専門分野に併せて、6 学部 (言語コミュニケーション学部・工学部・社会科学部・経済ビジネス学部・資源科学技術学部・応用芸術美術学部) に分かれての学部授業や施設見学を行った。

- 3) 日本文化紹介:

現地の中等学校訪問 (SMK Batu Lintang)、サラワク大学の日本語授業訪問、クロージングセレモニーにおいて、書道・浴衣・折紙・空手等の日本文化を紹介した。



英語研修授業の様子②



現地中等学校訪問 (ろうけつ染め体験)



現地中等学校訪問 (集合写真)



課外活動 (サラワク文化村)

4) 課外活動：

キャンパス内でのスポーツ（バレーボール、カヤック）、サラワク文化村、クチン市内のブルックギャラリー（歴史博物館）および市場、バコ国立公園の見学・観光等を行った。

5) バディプログラム：

研修期間中、サラワク大学の学生がバディとして約20名参加し、上記の授業・課外活動・寮生活をサポートしてくれた。



クロージングセレモニー（日本文化紹介）

(2) オーストラリア・サザンクロス大学

オーストラリアのニューサウスウェールズ州にあるサザンクロス大学が提供する英語研修プログラムを実施している。本研修では、英語の運用能力向上を主目的とした集中授業が中心となるが、それだけではなく、オーストラリアの自然や文化に触れられるような課外活動も含まれ、宇都宮では体験できない貴重な機会を得ることができる。加えて、参加学生は滞在期間を通じてオーストラリアの家庭にホームステイをすることで、現地の生活に触れることもできるプログラムとなっている。

①実施概要

1) 研修先・所在地：

サザンクロス大学（SCU）／オーストラリア・リズモー市

2) 参加学生数：学部生 22 名

<内訳>

地デ2名／国際8名／教育2名／工学4名／農学6名

3) 引率教職員：

アミン ガデミ（国際学部教員）

松尾 昌樹（国際学部教員）

田崎 正憲（留学生・国際交流課）

沖杉 礼子（留学生・国際交流課）

平出 純花（就学支援課）

4) プログラム実施スケジュール

募集説明会：5月24日（金）

募集期間：5月27日～6月7日

参加者選考決定：6月末

第1回事前研修：7月22日（月）

海外渡航前危機管理オリエンテーション：

7月18日

第2回事前研修：8月22日（木）

研修期間：8月26日（月）～9月9日（月）

研修報告：10月9日（水）



英語研修の様子①



英語研修の様子②



課外活動①（バリナ海事博物館）

②研修概要

1) 英語研修：

サザンクロス大学の英語教員による、アクティブ

ラーニングを取り入れた2週間の集中英語研修（平日 9:00～15:00）。

2) ホームステイ：

参加学生は大学周辺の現地家庭にホームステイをし、オーストラリアの生活を体験した。

3) 課外活動：

バイロンベイ・バリナ海事博物館、サーフィン等活動、キャンプ（1泊）、カルチャーショー鑑賞、ゴールドコースト観光（1泊）。



課外活動②（サーフィン体験）

(3) カナダ・カピラノ大学

交流協定締結に向けた交渉中のカナダ、ブリティッシュ・コロンビア州立カピラノ大学にて英語研修を行った。今年度開始のこのプログラムは、他の海外英語研修参加者を含む中級以上の学生を対象として生まれ、バンクーバー都市圏の先住民地域や日系社会を含む多文化主義社会と大自然の利を生かしたカリキュラムになっている。学術目的の英語運用能力の獲得を目的とし、午前のコースワークと午後のフィールドトリップを組み合わせている点が特徴である。

今年度は、第1週の学習を終えたところで、州政府の方針転換により遠隔授業として行われることになったため、帰国を早め、第2週と第3週は Moodle を使用してオンラインで行われた。

①実施概要

1) 研修先・所在地：

カピラノ大学（Capilano University）／
カナダ・ノースバンクーバー市

2) 参加学生数：学部生 11 名

<内訳>

国際 3 名／教育 6 名／工学 1 名／農学 1 名

3) 引率教職員：吉田 一彦（国際学部）

4) プログラム実施スケジュール

募集説明会：10月23日（水）

募集期間：10月24日～11月8日

参加者選考決定：11月下旬

第1回事前研修及び海外渡航前危機管理オリエンテーション：1月23日（木）

第2回事前研修：3月2日（月）

現地研修期間：3月9日（月）～19日（木）

オンライン講義：3月23日（月）～4月2日（木）

研修報告：令和2年7月（予定）

②研修概要

1) 英語研修：

カピラノ大学 English for Academic Purposes プログラムは、専任教師による 54 時間の集中英語研修。新しい語彙や表現を学ぶ午前中のコースワークと、



カピラノ大学（メイン・キャンパス）



コースワーク（授業）の様子



フィールドトリップ①（ダウンタウン）

学んだことを応用し実地見聞を広める午後のフィールドトリップ（市内・近郊見学や活動体験）からなる。

2) フィールドトリップ：

キャンパス見学（先住民地域）、ダウンタウンと孫文中国庭園、スタンレー・パーク（サイクリング）、森林浴。

3) オンライン講義：

旧市街建築ツアー、日系移民の歴史と居住地調査、チャイナタウンの歴史、E・カーと映像制作、先住民理解実習。

（留学生・国際交流センター事務室）



フィールドトリップ②（孫文中国庭園）



フィールドトリップ③（森林浴）

5.5 海外渡航危機管理サービス

グローバル人材育成の観点から、積極的に学生の海外留学を推進する一方、海外ではテロ、事件・事故、災害など各種のリスクが存在する。このことから、留学生・国際交流センターでは、これらのリスクに対応するため海外渡航危機管理サービスを導入した。このことにより、現地にいる学生へ危険情報の連絡や災害などが発生した際の安否確認ができるシステムを活用し、現地にて学生が困ったことが発生した時には 24 時間電話相談ができるサービスを受けられる体制を導入し、安心して海外留学ができる体制を構築している。

（留学生・国際交流センター事務室）

6 各種協議会等への参加

本年度は以下のような各種協議会に教職員を派遣し、国際交流や留学生支援などに関する経験交流や情報収集に努めた。

6.1 令和元年度全国国立大学法人留学生センター長及び留学生課長等合同会議

(1) 実施概要

- ①日 時：令和元年 11 月 12 日（火）
- ②場 所：エテルナ高崎
- ③主催大学：群馬大学
- ④本学参加者：
横田 信三（留学生・国際交流センター長） 田崎 正憲（留学生・国際交流センター事務室長）

(2) プログラム

- ①関係機関事業説明
 - 1) 文部科学省事業説明
 - 2) 独立行政法人日本学生支援機構事業説明
- ②事例紹介
「留学生就職促進プログラム」群馬大学
- ③協議事項
「今後の本会議の運営方法等について」
- ④議事
 - 1) 次期当番大学について
 - 2) 連絡事項・その他

6.2 令和元年度国立大学法人等国際企画担当責任者連絡協議会

(1) 実施概要

- ①日 時：令和元年 11 月 11 日（月）
- ②場 所：東京ガーデンパレス 高千穂（2 階）
- ③主催大学：
- ④テーマ：「インバウンド留学生の増加と国内定着に向けて」
- ⑤本学参加者：
夏秋 知英（理事〔研究・将来構想担当〕） 横田 信三（留学生・国際交流センター長）
田崎 正憲（留学生・国際交流センター事務室長）

(2) プログラム

- 【第 I 部】
- ◆講演：
「外国人留学生受入れ政策をめぐる現状と取組」

丸岡 充（文部科学省高等教育局学生・留学生課留学生交流室室長補佐）

「JICA と留学生事業」

岩崎 英二（国際協力機構国内事業部開発大学院連携推進室室長）

「企業から見た日本の大学教育に対する期待」

池山 一誠（ソニー株式会社人事センター統括部長）

◆制度説明：

「国際教育交流担当職員長期研修プログラム（LEAP）について」

齋藤 康行（文部科学省大臣官房国際課課長補佐）

「2020年度までの留学倍増とその後に向けて」

西川 朋子（官民協働海外留学創出プロジェクト「トビタテ！留学JAPAN」広報・マーケティング）

「新たな外国人材の受け入れ－在留資格「特定技能」の創設について－」

杉本 律子（東京出入国在留管理局就労審査第三部門首席審査官）

【第II部】

◆取り組み例紹介

「外国人留学生の国内就職と職場定着に向けて－文部科学省『留学生就職促進プログラム』の実践から－」

伊月 知子（愛媛大学留学生就職促進プログラム推進室長）

「熊本大学留学生の県内・国内定着に向けて」

伊賀崎 伴彦（熊本大学留学生就職推進室長）

◆パネルディスカッション

司会：田賀 哲也（東京医科歯科大学特命副学長〔国際担当〕）

パネリスト（5名）

丸岡 充（文部科学省学生・留学生課留学生交流室室長補佐）

池山 一誠（ソニー株式会社人事センター統括部長）

伊月 知子（愛媛大学留学生就職促進プログラム推進室長）

伊賀崎 伴彦（熊本大学留学生就職推進室長）

松隈 潤（東京外国語大学副学長〔国際等担当〕）

（以上、留学生・国際交流センター事務局）

6.3 2019年度国立大学法人留学生センター等 留学生指導担当研究協議会

(1) 実施概要

- ①日 時：2019年7月11日（木）13：00～17：00
- ②場 所：東京大学本郷キャンパス 理学部1号館東棟
- ③主催大学：東京大学グローバルキャンパス推進本部国際化教育支援室
- ④本学参加者：堀尾 佳以（工学部講師）

(2) プログラム（敬称略）

総合司会：原田 麻里子（東京大学グローバルキャンパス推進本部国際化教育支援室講師）

①挨拶：矢口 祐人（東京大学グローバルキャンパス推進本部国際化教育支援室長）

②第I部：「留学生受け入れ政策をめぐる近年の動向」

丸岡 充（文部科学省高等教育局学生・留学生課課長補佐・室長補佐）

③第Ⅱ部：「LGBTQ 学生支援：国境を越えた受入環境整備の課題」

企画主旨説明 大西 晶子（東京大学グローバルキャンパス推進本部国際化教育支援室准教授）

1) 「LGBTQ 基礎知識：大学生の支援における課題」

講師：石丸徑一朗（お茶の水女子大学生活科学部心理学科准教授）

2) 「国際的にみる LGBTQ の権利と日本の特徴：多様な性・家族や婚姻・在留資格上の扱いを中心に」

講師：永野 靖（弁護士）

3) 「国際基督教大学における先進的な取り組み事例の紹介：寮やキャンパス生活における対応・交換留学生の受入れ等における対応事例を中心に」

講師：島崎 弓子（国際基督教大学国際交流室長）

④第Ⅲ部 留学生相談・支援関連 各大学情報交換

（留学生・国際交流センター事務室）

6. 4 2019 年度第 2 回国立大学法人留学生指導研究協議会 （兼：第 52 回大阪大学留学生教育・支援協議会）

(1) 実施概要

①日 時：2020（令和 2）年 2 月 7 日（金）13：30～19：00

②場 所：大阪大学吹田キャンパス銀杏会館 3 階阪急電鉄・三和銀行ホール

③主催大学：大阪大学国際教育交流センター

④テ ー マ：「留学生がもたらす大学の国際化」

⑤本学参加者：湯本 浩之（留学生・国際交流センター副センター長）

(2) プログラム

総合司会：有川 友子（大阪大学国際教育交流センター長）

挨拶：田中 敏宏（大阪大学理事・副学長）

コーディネーター：岸田 由美（金沢大学理工研究域准教授）

I. 留学生受入れに関する施策

①説明「留学生受入れの推進に関する取組等」

丸岡 充（文部科学省高等教育局学生・留学生課留学生交流室室長補佐）

②質疑応答

II. 講演「インバウンド × アウトバウンド留学のコラボ：ビジョンと実践

阿部 仁（一橋大学国際教育交流センター長）

III. 分科会「留学生がもたらす大学の国際化」

A：「学生サービス（相談・就職・支援など）」

ファシリテーター：田中 京子（名古屋大学国際教育交流センター教授）

市嶋 典子（秋田大学高等教育グローバルセンター准教授）

B：「教育（授業内容など）」

ファシリテーター：大塚 薫（高知大学国際連携推進センター准教授）

宇塚万里子（岡山大学全学教育・学生支援機構教授）

C：「正課外活動（寮生活・交流活動など）」

ファシリテーター：中本 信一（埼玉大学国際本部教授）

園田 智子（東京大学総合文化研究科・教養学部留学生相談室講師）

IV. 各分科会からの報告と全体討論

閉会の挨拶：有川 友子（大阪大学国際教育交流センター長）

（湯本）

6. 5 令和元年度日本語・日本文化研修留学生問題に関する検討会

(1) 実施概要

- ①日 時：令和元年 11 月 15 日（金）13：30～17：10
- ②場 所：大阪大学豊中キャンパス「基礎工学国際棟（シグマホール）」
- ③主催大学：大阪大学日本語日本文化教育センター
- ④本学参加者：横田 信三（留学生・国際交流センター長）

(2) プログラム

- ①留学生政策をめぐる現状と取組
松田 直久（文部科学省高等教育局学生・留学生課留学生交流室係長）
- ②質疑応答
- ③拠点事業紹介
- ④報告 1：日研生の学内活動とその効果（岩手大学・大東文化大学）
- ⑤質疑応答
- ⑥報告 2：地域とつながる日系生プログラム（同志社大学・熊本大学）
- ⑦質疑応答
- ⑧情報交換会

（横田）

Ⅲ 教員個人活動実績



活動実績：横田 信三

1. 研究課題

	課 題	小 課 題
1	樹木の病原菌に対する防御機構の解明	カバノアナタ菌に感染したシラカンバ幼植物体に生成する特異的タンパク質のプロテオーム解析
		カバノアナタ菌に感染したシラカンバ幼植物体に発現する特異的遺伝子の解析
2	木質系バイオマスの有効利用に関する研究	マツノカタワタケが生産する菌体外セルラーゼの精製に関する研究
		シイタケが生産する菌体外タンパク質のプロテオーム解析
		シイタケ菌床栽培中に発生する菌床代謝水中のタンパク質の解析

2. 研究活動および成果

2-1. 発表論文・著書

	著者名	論文名・著書名	掲載雑誌等・出版社	巻・号・頁	年月
1	Takeuchi R., Wahyudi I., Aiso H., Ishiguri F., Istikowati W.T., Ohkubo T., Ohshima J., Iizuka K., Yokota S.	Anatomical characteristics and wood properties of unutilized <i>Artocarpus</i> species found in secondary forests regenerated after shifting cultivation in Central Kalimantan, Indonesia	Agroforestry Systems	93(2), 745-753	2019
2	Prasetyo A., Aiso-Sanada H., Ishiguri F., Wahyudi I., Wijaya I.P.G., Ohshima J., Yokota S.	Growth characteristics and wood properties of two interspecific <i>Eucalyptus</i> hybrids developed in Indonesia	Forest Products Journal	68(4), 436-444	2019
3	Tumenjargal B., Ishiguri F., Ohshima J., Iizuka K., Otsuka K., Kinomoto M., Yokota S.	Effects of radial growth rate on wood and lumber properties of 67-year-old Japanese larch (<i>Larix kaempferi</i>) trees planted in Tochigi, Japan	Wood and Fiber Science	51(3), 264-275	2019
4	Ishiguri F., Iki T., Otsuka K., Takahashi Y., Nezu I., Tumenjargal B., Ohshima J., Yokota S.	Wood and lumber properties of <i>Larix gmelinii</i> var. <i>olgensis</i> planted in Japan	Bioresources	14(4), 8072-8081	2019
5	Tumenjargal B., Ishiguri F., Aiso-Sanada H., Takahashi Y., Nezu I., Baasan B., Chultem G., Ohshima J., Yokota S.	Geographical variations of lumber quality of <i>Larix sibirica</i> naturally grown in five different provenances of Mongolia	Journal of Wood Science	65, 43-51	2019
6	Tanabe J., Takashima Y., Ishiguri F., Sanpe H., Ohshima J., Iizuka K., Yokota S.	Differences in β -thujaplicin content of wood between plantation- and naturally-grown <i>Thujopsis dolabrata</i> var. <i>hondae</i> (hinokiasunaro) trees in Shimokita Peninsula, Aomori, Japan	Journal of Wood Science	65, 56-61	2019
7	Agnestisia R., Ono A., Nakamura L., Chino R., Nodera K., Aiso-Sanada H., Nezu I., Ishiguri F., Suzuki T., Yokota S.	The complete mitochondrial genome sequence of the medicinal fungus <i>Inonotus obliquus</i> (Hymenochaetaceae, Basidiomycota)	Mitochondrial DNA Part B Resources	4(2), 3504-3506	2019
8	Prasetyo A., Aiso-Sanada H., Ishiguri F., Wahyudi I., Wijaya I.P.G., Ohshima J., Yokota S.	Variations in anatomical characteristics and predicted paper quality of three <i>Eucalyptus</i> species planted in Indonesia	Wood Science and Technology	53(6), 1409-1423	2019
9	Aiso-Sanada H., Ishiguri F., Diloksumpun S., Nezu I., Tanabe J., Ohshima J., Yokota S.	Effects of thinning on anatomical characteristics and wood properties of 12-year-old <i>Eucalyptus camaldulensis</i> trees planted in Thailand	Tropics	28(3), 67-73	2019
10	Tumenjargal B., Ishiguri F., Takahashi Y., Nezu I., Baasan B., Chultem G., Aiso-Sanada H., Ohshima J., Yokota S.	Predicting the bending properties of <i>Larix sibirica</i> lumber using nondestructive-testing methods	International Wood Products Journal	Doi.org/10.1080/20426445.2020.1735754	2020
11	Tumenjargal B., Ishiguri F., Takahashi Y., Nezu I., Baasan B., Chultem G., Aiso-Sanada H., Ohshima J., Yokota S.	Bending properties of dimension lumber produced from Siberian larch (<i>Larix sibirica</i>) in Mongolia	Journal of Wood Science	66, 17-24	2020

2-2. 学会発表

	著者名	発表題名	学会名等	要旨集、頁	年月
1	石栗 太、根津郁実、相蘇（眞田）春菜、Permal MAL, Jaffar ANNBM, Ambun DBA, Wasli ME, 大島潤一、大久保達弘、横田信三	マレーシア・サラワク州クチン近郊に植栽された23年生 <i>Shorea macrophylla</i> の成長と木材性質の関係	第29回日本熱帯生態学会年次大会	第29回日本熱帯生態学会年次大会要旨集	2019.6
2	Frismanti AAAR, Ishiguri F, Yokota S, Istikowati WT, Oertiwi YAB, Aiso-Sanada H	Within-tree variation in anatomical characteristics of <i>Nauclea officinalis</i> trees naturally grown in a secondary forest, Indonesia	第29回日本熱帯生態学会年次大会	第29回日本熱帯生態学会年次大会要旨集	2019.6

3	根津郁実、石栗 太、大島潤一、横田信三、相蘇 (眞田) 春菜、サビット・ディクロスムブン	用材生産に向けた 12 年生 <i>Eucalyptus camaldulensis</i> 半家系の成長および木材性質に関する研究	第 29 回日本熱帯生態学会年次大会	第 29 回日本熱帯生態学会年次大会要旨集	2019.6
4	Agnestisia R., Chino R., Nodera K., Aiso-Sanada H., Nezu I., Suzuki T., Ishiguri F., Yokota S.	Genome sequence of fungus <i>Inonotus obliquus</i> strain IO-B2 (NBRC 113408) reveals insights into wood degradation	1st International Lignin Symposium	1st International Lignin Symposium Abstract book, p121	2019.9
5	Ishiguri F, Takahashi Y, Yamazaki H, Endo R, Otsuka K, Aiso-Sanada H, Ohshima J, Yokota S	Within-tree variations of wood properties and bending properties of full-size lumber in a large-diameter Japanese cedar (<i>Cryptomeria japonica</i>) tree	2nd International Symposium on Forestry and Wood Science in Mongolia	Abstracts of 2nd International Symposium on Forestry and Wood Science in Mongolia	2019.9
6	Tumenjargal B, Ishiguri F, Aiso-Sanada H, Takahashi Y, Baasan B, Chultem G, Yokota S	Radial variations of wood properties in <i>Larix sibirica</i> trees naturally grown in Mongolia	2nd International Symposium on Forestry and Wood Science in Mongolia	Abstracts of 2nd International Symposium on Forestry and Wood Science in Mongolia	2019.9
7	Sarkhad M, Ishiguri F, Takahashi Y, Yokota S, Baasan B, Chultem G	Radial variations of wood properties of common four softwood species in Mongolia	2nd International Symposium on Forestry and Wood Science in Mongolia	Abstracts of 2nd International Symposium on Forestry and Wood Science in Mongolia	2019.9
8	Takahashi Y, Ishiguri F, Takashima Y, Hiraoka Y, Iki T, Miyashita H, Ohshima J, Yokota S	Among-family variation of wood properties in <i>Larix kaempferi</i> planted in two progeny trial stands	2nd International Symposium on Forestry and Wood Science in Mongolia	Abstracts of 2nd International Symposium on Forestry and Wood Science in Mongolia	2019.9
9	Nezu I, Ishiguri F, Aiso-Sanada H, Diloksumpun S, Ohshima J, Yokota S	Radial and among-family variations in wood properties of 12-year-old <i>Eucalyptus camaldulensis</i> trees planted in Thailand	2nd International Symposium on Forestry and Wood Science in Mongolia	Abstracts of 2nd International Symposium on Forestry and Wood Science in Mongolia	2019.9
10	Nakata M, Ishiguri F, Yamashita K, Katsuki T, Sarkhad M, Takahashi Y, Nezu I, Ohshima J, Yokota S	Growth characteristics and wood properties of 45-year-old <i>Picea koyamae</i> trees planted in Japan	2nd International Symposium on Forestry and Wood Science in Mongolia	Abstracts of 2nd International Symposium on Forestry and Wood Science in Mongolia	2019.9
11	Sato N, Konno N, Habu N, Ishiguri F, Ohshima J, Yokota S	Time-course changes in activities of extracellular glycoside hydrolases from <i>Lentinula edodes</i> agitating-cultured in liquid medium containing pectin	2nd International Symposium on Forestry and Wood Science in Mongolia	Abstracts of 2nd International Symposium on Forestry and Wood Science in Mongolia	2019.9
12	Tumenjargal B, Ishiguri F, Aiso-Sanada H, Takahashi Y, Baasan B, Chultem G, Yokota S	Prediction of lumber quality by stress-wave velocity of stems and dynamic Young's modulus of logs in <i>Larix sibirica</i> trees naturally grown in Mongolia	21st International Nondestructive Testing and Evaluation of Wood Symposium	Abstracts of 21st International Nondestructive Testing and Evaluation of Wood Symposium	2019.9
13	高橋優介、石栗 太、大島潤一、高島有哉、平岡裕一郎、井城泰一、宮下久哉、横田信三	36 年生カラマツ (<i>Larix kaempferi</i>) 人工交配家系における木材性質の遺伝性	第 8 回森林遺伝育種学会大会	第 8 回森林遺伝育種学会大会要旨集	2019.11
14	Ngadianto A, Nezu I, Ishiguri F, Ohshima J, Yokota S, Irawati D, Hidayati F	Wood properties of three fast-growing tree species grown in community forests, Yogyakarta, Indonesia	第 70 回日本木材学会大会	第 70 回日本木材学会大会 研究発表要旨集, B16-01-1400	2020.3
15	Frismanti AARA, Ishiguri F, Oshima J, Yokota S, Istikoawati WT, Pertiwi YAB, Aiso-Snada H	Derived-wood properties of a lesser-known species, <i>Nauclea officinalis</i> naturally grown in a secondary forest in South Kalimantan, Indonesia	第 70 回日本木材学会大会	第 70 回日本木材学会大会 研究発表要旨集, B16-01-1415	2020.3
16	高橋優介、石栗 太、高島有哉、平岡裕一郎、井城泰一、宮下久哉、大島潤一、横田信三	スギおよびカラマツにおける木材性質の遺伝性	第 70 回日本木材学会大会	第 70 回日本木材学会大会 研究発表要旨集, B16-01-1445	2020.3
17	大島潤一、樋口大航、野寺開斗、飯塚和也、石栗 太、横田信三	二ホンツキノワグマによる剥皮被害を受けたスギ樹幹の材質劣化Ⅱ—伐期を迎えた林齢 64 年のスギを対象として—	第 70 回日本木材学会大会	第 70 回日本木材学会大会 研究発表要旨集, B17-P1-01	2020.3
18	石栗 太、高橋優介、根津郁実、中田実優、大島潤一、横田信三、山下香菜、勝木俊雄、大塚紘平	ヤツガタケトウヒ造林木の肥大成長速度が材質に及ぼす影響	第 70 回日本木材学会大会	第 70 回日本木材学会大会 研究発表要旨集, B17-P1-13	2020.3

19	根津郁実, 石栗 太, 大島潤一, 横田信三, 相蘇 (真田) 春菜, Diloksumpun S	タイ東北部に植栽された12年生 <i>Eucalyptus camaldulensis</i> 半家系の木材性質および組織学的特徴と成長特性との関係	第70回日本木材学会大会	第70回日本木材学会大会 研究発表要旨集, B17-P1-17	2020.3
20	Togtokhbayar E, Tumenjargal B, Ishiguri F, Takahashi Y, Nezu I, Ohshima J, Yokota S	Within-tree variations of wood properties in <i>Betula platyphylla</i> grown naturally in Nikko, Japan	第70回日本木材学会大会	第70回日本木材学会大会 研究発表要旨集, B17-P1-18	2020.3
21	Agnestisia R, Suzuki T, Nodera K, Aiso-Sanada H, Nakamura L, Ishiguri F, Yokota S	Wood-degradation-related genes from genome sequence of fungus <i>Inonotus obliquus</i> strain IO-B2 (NBRC 113408)	第70回日本木材学会大会	第70回日本木材学会大会 研究発表要旨集, O17-P1-04	2020.3
22	アグネスティシア・レトノ、小野晶子、中村瑠奈、千野 怜、野寺闘斗、相蘇春菜、根津郁実、石栗 太、鈴木智大、横田信三	カンパ類癌腫病菌カバノアナタケ IO-B2 株の木材化学成分分解関連遺伝子	令和2年度日本植物病理学会大会	令和2年度日本植物病理学会大会プログラム・講演要旨予稿集, p56-147	2020.3

3. 研究費

3-1. 取得研究費

種別	資金源・種別等	研究課題	代表者	金額(千円)	期間
学外助成	受託研究費	木質系炭塗料を用いた健康向上資材等の開発	横田信三	550	H31.4 ~ R2.3
学外助成	科学研究費補助金・基盤研究(C)(一般)代表	癌腫病菌に感染したシラカンバ植物体に生成するタンパク質の3次元画像網羅解析	横田信三	4,940	H29.4 ~ R2.3
学外助成	科学研究費補助金・基盤研究(B)(一般)分担	微生物群集機能に基づく樹木の材腐朽進展プロセスの解明	山田利博	1,300	H30.4 ~ R3.3

4. 教育活動

4-1. 講義

	講義・授業名	前期/後期	種別・対象学年	単位数	備考
1	ノーベル化学賞周辺の化学	後期	基盤教育	2	
2	森林科学論Ⅱ	後期	農学部・1年生	2	分担(2名で担当)
3	国際森林科学論	前期	農学部・2年生	2	分担(6名で担当)
4	林産学実験	後期	農学部・2年生	1	分担(2名で担当)
5	森林基礎化学	前期	農学部・1年生	2	
6	森林化学	前期	農学部・2年生	2	
7	森林資源利用学	後期	農学部・3年生	2	
8	森林化学実験	前期	農学部・3年生	1	
9	森林資源利用学実習	後期	農学部・3年生	1	分担(2名で担当)
10	特別講義Ⅰ	後期	農学部・3年生	1	分担(2名で担当)
11	特別講義Ⅱ	前期	農学部・4年生	1	分担(2名で担当)
12	卒業論文	通年	農学部・4年生	6	
13	森林資源利用学特論	後期	農学研究科	2	
14	樹木生化学特論	前期	農学研究科	2	
15	林産化学特論	後期	農学研究科	2	
16	森林科学特別実験・演習Ⅰ	通年	農学研究科	2	
17	森林科学特別実験・演習Ⅱ	通年	農学研究科	2	
18	森林科学特別研究Ⅰ	通年	農学研究科	5	
19	森林科学特別研究Ⅱ	通年	農学研究科	5	
20	植物機能化学	後期	地域創生科学研究科	2	分担(3名で担当)
21	農芸化学特別演習	通年	地域創生科学研究科	4	
22	農芸化学特別研究	通年	地域創生科学研究科	6	
23	森林バイオマス学特論	後期	連合農学研究科	0.5	分担(4名で担当)
24	森林資源物質科学合同セミナー	前期	連合農学研究科	0.5	分担(10名で担当)
25	森林資源物質科学特別演習	通年	連合農学研究科	2	
26	森林資源物質科学特別研究	通年	連合農学研究科	6	

4.2. 大学院生論文指導

		学年	氏名	論文題目
修士課程	主指導	M 2	野寺開斗	Study on antifungal mechanisms of Japanese birch plantlet No.8 infected with <i>Inonotus obliquus</i> strain IO-U1 by using imaging mass spectrometry and proteomics
	副指導	M 2	高橋優介	スギおよびカラマツにおける木材性質の遺伝性
	副指導	M 2	Anak Agung Ayu Ratih Frismanti	Anatomical and chemical characteristics of a lesser-known species, <i>Nauclea officinalis</i> naturally grown in secondary forest, South Kalimantan, Indonesia
	副指導	M 1	根津郁実	熱帯地域の産業植林に利用される早生樹種の成長特性と木材性質
博士課程	主指導	D 3	Bayasaa Tumenjargal	Studies on geographic variations of wood properties and lumber qualities in <i>Larix sibirica</i> Ledeb. naturally grown in Mongolia
	主指導	D 3	Retno Agnestisia	Study on the inter-responses at the gene and protein levels between Japanese birch cultures and a birch canker-rot fungus <i>Inonotus obliquus</i> at an early infection stage
	主指導	D 2	Togtokhbayar Erdene-ochir	Study on formation of spalted wood in <i>Betula platyphylla</i> grown in Mongolia
	主指導	D 2	Sarkhad Murzabyek	Wood properties of commercial timber species grown in Mongolia
	主指導	D 1	Agus Ngadianto	インドネシアに生育する早生樹 3 種の木材から構成された集成材の物理的、力学的性質

4.3. 卒業論文指導

	氏名	卒業論文題目
1	今井 瞭	カバノアナタケ IO-B2 株のリグニン分解酵素関連遺伝子の解析

5. 学内活動

種別	委員会・役職等	任期	備考
全学組織	留学生・国際交流センター長	H28.4 ~ R2.3	
全学組織	学術国際委員会・副委員長	H28.4 ~ R2.3	
全学組織	留学生専門委員会・委員長	H28.4 ~ R2.3	
全学組織	SDGs ワーキンググループ委員	H30.4 ~	
農学部	農学部学術国際委員会・委員長	H30.4 ~	

6. 学外活動

6-1. 学会活動

学会名	役職名	備考
日本木材学会	会員	
日本農芸化学会	会員	
日本植物細胞分子生物学会	会員	
日本植物生理学会	会員	
日本質量分析学会	会員	
植物化学研究会	会員	
日本植物病理学会	会員	
日本核磁気共鳴学会	会員	
アメリカ植物病理学会	会員	
アメリカ質量分析学会	会員	
アメリカ植物生物学者学会	会員	
アメリカ化学会	会員	

6-2. 委嘱委員

組織	委員会名	備考
(非公開)	(非公開)	H31.4~R2.3

活動実績：湯本 浩之

1. 研究課題

	課 題	小 課 題
1	開発教育・グローバル教育・持続可能な開発のための教育 (ESD)・シティズンシップ教育等の歴史研究や政策研究	欧州の新教育運動や英国のワールドスタディーズに関する研究 英国や欧州連合における開発教育・グローバル教育・シティズンシップ教育などの政策に関する研究
2	参加型学習と参加型開発との比較研究	ワークショップやファシリテーションの理論や実践に関する研究 PRA (参加型農村調査) やPLA (参加型学習行動) に関する研究

2. 研究活動および成果

2-1. 著書

	著者名	著 書 名	出 版 社	巻・号、頁	年月
1	湯本浩之 (分担執筆)	第3章「オルタナティブな開発と教育：持続可能な開発目標 (SDGs) における開発教育の課題と役割」	吉川健治編『国際協力の行方：経済・開発・オルタナティブ』、春風社。	東洋英和女学院大学社会科学叢書 8、59-83 頁	2020 年 3 月

2-2. 論文・書誌原稿

	著者名	原 稿 名	掲載誌・発行者	巻・号、頁	年月
1	湯本浩之	書評「高柳彰夫・大橋正明編『SDGs を学ぶ：国際開発・国際協力入門』法律文化社、2018 年」	『ESD 研究』、日本 ESD 学会	第 2 号、69 頁	2019 年 8 月

2-3. 学会発表等

	発表者名	発表題目	学会名等	年月日	年月
1	湯本浩之	教材体験ワークショップ「“地球にやさしい”ってなんだろう？：ESD における開発教育教材の応用と課題」	日本 ESD 学会第 2 回大会「ワークショップ C」	2019 年 8 月	2019 年 8 月

2-4. その他の研究活動

	種別・形態	研究課題名	期間	備考
1	共同研究	SDGs と社会教育・生涯学習：持続可能な地域と学びづくり	2020 年度 (2019 年 9 月) ～	日本社会教育学会「プロジェクト研究」
2	共同研究	オンライン・リベラルアーツ講座 (SDGs 講座) の研究開発	2019 年度～	日本 ESD 学会・日本オープンオンライン教育推進協議会
3	共同研究	SDG と開発教育	2019 年度～	開発教育協会「SDGs と開発教育」研究会

3. 研究費

3-1. 取得研究費

種別	資金源・種別等	研究課題・費目	代表者	金額 (千円)	期間
学外助成	科学研究費助成事業・基盤研究 (C)	SDGs を目指した持続可能な地域の形成条件と ESD 評価方法に関する実証研究	湯本浩之	1,690	2019 年度～21 年度
学外助成	大学コンソーシアムとちぎ寄付金	とちぎグローバル人材育成プログラム共通科目開講経費	湯本浩之	100	2019 年度

4. 教育活動

4-1. 講義・演習

	講義・授業名	学期	種別・対象学年	単位	備 考
1	グローバル実践力基礎演習 I	前期	国際学部・2 年	1	第 2 回を担当
2	グローバルイシュー研究演習 I	前期	国際学部・2 年	2	他 2 名の教員と担当

3	グローバルイシュー研究演習Ⅱ	後期	国際学部・2年	2	他2名の教員と担当
4	グローバル教育論	後期	国際学部・2年	2	
5	国際キャリア教育(*1)	前期集中	国際学部・1～4年	2	他2名の教員と担当
6	国際キャリア実習	前後期集中	国際学部・1～4年	2	他2名の教員と担当
7	国際協力研究演習F	前期	国際学部・3年	2	
8	卒業研究準備演習	後期	国際学部・3年	2	
9	卒業研究Ⅰ	前期	国際学部・4年	4	
10	卒業研究Ⅱ	後期	国際学部・4年	4	
11	国際インターンシップ	前後期集中	全学科目1～4年	2	同WGで運営
12	Globalization and Society(*2)	後期集中	国際学部	2	
13	Globalization and Society(*2)	後期集中	地域デザイン学部	2	
14	Globalization and Society(*2)	後期集中	工学部	2	
15	Globalization and Society(*2)	後期集中	農学部	2	
16	Globalization and Society(*2)	後期集中	地域創生科学研究科	2	社会デザイン科学専攻
17	グローバル教育と開発教育Ⅰ	後期前半	地域創生科学研究科	1	修士課程
18	グローバル教育と開発教育Ⅱ	後期後半	地域創生科学研究科	1	修士課程
19	グローバルエリア・ステディーズ 特別演習	通年	地域創生科学研究科	4	修士課程
20	グローバルエリア・ステディーズ 特別研究	通年	地域創生科学研究科	6	修士課程
21	国際教育政策研究	後期	国際学研究科	2	博士後期課程
22	日研究生特別研究Ⅰ	後期	日本語・日本文化研修留学生プログラム	2	留学生・国際交流センター開講科目
23	日研究生特別研究Ⅱ	前期	日本語・日本文化研修留学生プログラム	2	留学生・国際交流センター開講科目

*1の「国際キャリア教育」は地域デザイン学部および農学部とのマルチコード科目

*2の「Globalization and Society」は同じ講義内容のマルチコード科目

4-2. 「Learning + 1」

	授 業 名	日 程	分 野	単 位 数	備 考
1	国際キャリア教育 (*1)	9/14～16	キャリア形成	2	
2	Globalization and Society(*2)	2/26～28	グローバルな教養と日本の文化	2	

4-3. とちぎグローバル人材育成プログラム共通科目

	授 業 名	日 程	分 野	単 位 数	備 考
1	国際キャリア教育 (*1)	9/14～16	キャリア形成	2	
2	Globalization and Society(*2)	2/26～28	グローバルな教養と日本の文化	2	

4-4. 大学院生論文指導（国際学研究科博士後期課程）

	種 別	学 年	氏 名・専 攻	論 文 題 目
1	副指導	D2	増山貴子・国際学研究専攻	児童養護の国際比較：脱施設化の中での支援のあり方

4-5. 大学院生論文指導（国際学研究科博士課程前期課程・地域創生科学研究科修士課程）

	種 別	学 年	氏 名・専 攻	論 文 題 目
1	副指導	M2	項馨磊・国際交流研究専攻	企業による NGO への社会貢献に関する研究：日中の企業と NGO の協力の事例から
2	主指導	M1	王思雨・社会デザイン科学専攻	21世紀グローバル社会に向けた日中両国の新たな国際協力のあり方に関する研究
3	主指導	M1	王文奇・社会デザイン科学専攻	日本及び台湾の仏教慈善事業の展開及び交流に関する研究：慈濟会日本支部の社会活動を中心に
4	副指導	M1	龐少博・社会デザイン科学専攻	中国西部貧困削減における日本の NPO の役割と課題の一考察：日本の NPO の教育援助の視点から

4-6. 卒業論文指導（国際学部）

	種別	氏名	研究題目
1	主指導	上原優海	グローバル時代が求める教育：グローバル能力の育成を目指したグローバル教育の実践
2	主指導	清野ひかる	対人関係と人生に影響を与える「自己価値感」と「愛着」：対人関係の問題や「生きづらさ」を感じさせる要因とはなにか
3	主指導	小林理花	現代社会における教育格差の研究：都市と地方における格差に注目して
4	主指導	大和田奈那	畜産における地球環境への負荷と食肉制限がもたらす効果
5	副査	大津葵	大学生の求める奨学金制度とは：宇都宮大学に通う学部生へのアンケート調査をもとに
6	副査	菅原笑	現代奴隷問題解決に向けた日本での企業活動と消費者教育：消費者意識に働きかける効果的なパッケージ・デザインの模索
7	副査	竹中いろは	現代社会における若者支援の在り方：フィンランドと横浜市を例に
8	副査	山田萌花	子どもの貧困問題解決における教育環境整備に関する考察
9	副査	上遠野亜衣	メキシコ社会における基礎教育に関する教育問題と全国教員労働組合の関係性
10	副査	小舩教徳	食料廃棄における関係者の責任と意識

4-7. 非常勤講師

	出講先	科目名	学期	単位数	備考
1	早稲田大学文化構想学部	ボランティアとNPO・NGO	後期	2	

4-8. 出張講義

	実施校名	講義・授業のテーマ	実施日	備考
1	栃木県立宇都宮東高校	高大連携講座「スマホから考える“持続可能な世界”とわたし」	6月20日	国際学部出前授業
2	福島県立郡山高校	持続可能な開発目標（SDGs）と私たちの生活「地球にやさしい社会や生活」とは？	10月24日	国際学部出前授業

4-9. 講演・研修

	事業名・主催者	講義・研修のテーマ	実施日	備考
1	平成31年度「人権教育指導者専門研修」（主催：栃木県総合教育センター）	講話「人権教育の視点：『わたし』の中の“排除”と“包摂”」	6月13日	対象：学校教員など
2	人権に関する職員研修会（主催：佐野市市民生活部人権・男女共同参画課）	持続可能な開発目標（SDGs）から考える「人権」の視点と課題	6月26日	対象：市役所職員
3	令和元年度「国際理解教育実践研修：SDGsの視点による」（主催：埼玉県立総合教育センター）	持続可能な開発目標（SDGs）のための学び：「ESD」と「SDGs 4.7」	7月24日	対象：学校教員
4	令和元年度地球市民講座 Vol.30「多文化共生を考える：共に生きる世界、今こそ自分を見つめよう」（主催：足利市織姫公民館）	第1回「写真で学ぼう！地球の食卓：『食』から考える世界の多様性」	10月16日	対象：一般市民・学生など
		第5回「あなたの『仲間』は誰ですか『わたし』の中の“排除”と“包摂”」	11月13日	
5	令和元年度人権教育指導者養成研修（主催：足利市教育委員会・足利市人権教育推進本部）	多文化共生について考える：「食」から考える世界の多様性	10月16日	対象：一般市民・人権団体関係者など
6	2019年度「ACEF 秋のセミナー」（主催：NPO 法人アジアキリスト教教育基金）	みんなで作ろうSDGsの教材	10月19日	対象：ACEF 会員
7	第69次教育研究全国集会（主催：日本教職員組合）	第15分科会「国際連帯・多文化共生の教育」共同研究者	1月25～26日	対象：学校教員

5. 学内活動

5-1. 各種委員会等

種 別	委員会・役職等	任 期	備 考
全学委員会等	学務委員会・委員	2017 年度～現在	
	学術国際委員会・委員	2018 年度～現在	
	学生相談室・相談員	2017 年度～現在	
	国際インターンシップ・ワーキンググループ・メンバー	2016 年度～現在	
	SDGs ワーキンググループ・メンバー	2019 年 1 月～現在	
学部委員会	70 周年記念事業「SDGs フォトコンテスト」審査委員	2019 年度	
	学部・研究科点検評価委員会・委員	2017 年度～現在	国際学部
	国際キャリア教育プログラム運営委員会・委員	2013 年度～現在	国際学部
留国センター	留学生・国際交流センター・副センター長	2017 年度～現在	
	国際交流部門担当	2013 年度～現在	
	「留学生・国際交流センター年報」編集担当	2014 年度～現在	
	「研究論集・センター年報」編集担当	2014 年度～現在	

5-2. 課外活動団体

種別	団体名	役職	任期	備 考
認定団体	ナムチャイ：タイの子供達に絵本を贈る会	顧問	2019 年度～現在	

6. 学外活動

6-1. 学会活動

学 会 名	役 職 名	備 考
日本 ESD 学会	会員・学会誌副編集委員長（2018 年度～）	
日本社会教育学会	会員・常任理事（国際交流担当：2019 年 9 月～）	
日本環境教育学会	会員	
国際開発学会	会員	
International Editorial Board for International Journal of Development Education and Global Learning	International Editorial Board Member	

6-2. 委嘱委員（公的機関）

組 織 等	役職・活動名等	備 考
佐野市人権推進審議会 会長	「第 3 期佐野市人権教育・啓発推進行動計画」答申	

6-3. その他の学外活動（民間公益団体・市民活動団体）

組 織 等	役職・活動名等	備 考
公益財団法人 日本 YMCA 同盟	「地球市民育成プロジェクト」リソースパースン	
	主事論文審査委員	
公益財団法人 生協総合研究所	「アジア生協協力基金」運営委員	
公益信託 今井記念海外協力基金	諮問委員	
認定 NPO 法人 開発教育協会 (DEAR)	副代表理事・研究論文査読委員長	
認定 NPO 法人 アジアコミュニティセンター 21 (ACC21)	理事	



活動実績：飯塚 明子

1. 研究課題

	課 題	小 課 題
1	防災と国際協力	防災分野の国際協力
		NGO による国際協力
2	コミュニティ防災	国内外の被災地におけるコミュニティを核とした防災活動
		災害対応、復旧、復興
		災害ボランティア

2. 研究活動および成果

2-1. 発表論文・著書

	著者名	論文名・著書名	掲載雑誌・出版社等	巻・号、頁	年月
1	近藤伸也、飯塚明子	防災学術研究と持続可能な開発目標の関連分析の試み	地域安全学会梗概集	45号、pp.39-42	2019/11
2	土崎雄祐、石井大一郎、長谷川万由美、近藤伸也、飯塚明子	災害ボランティア活動の支援体制の構築に関する一考察：NPOの活動意向とNPO支援センターの役割	宇都宮大学地域デザイン科学部研究紀要「地域デザイン科学」	6号、pp.62-74	2020/3

2-2. 学会および国際会議口頭発表

	著者名	発表題名	学会および会議名等	年月
1	Iizuka Akiko	A Japan's Partnership Model of NGOs, Government and Business in International Disaster Relief	2019 The 3rd ARNOVA Asia Conference: The Actionability of Civil Society Challenges of Social Innovation	2019/6/5
2	飯塚明子	緊急から復旧、復興期における外部支援者の役割についての考察：宮城県気仙沼市の事例	国際開発学会第20回春季大会	2019/6/15
3	Iizuka Akiko	The Study of Japanese NGOs in the Context of Official Development Aid: A Case Study of Japan Platform	2019 Annual Meeting New England Conference of the Association for Asian Studies	2019/11/2
4	Iizuka Akiko	The Characteristics and Challenges of Disaster Volunteers in Japan	2019 ARNOVA Conference	2019/11/22

2-3. その他

	著者名	論文名	掲載雑誌等・出版社	巻・号、頁	年月
1	飯塚明子	米国における災害と防災支援についての研究	宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター年報	第12号、36-37頁	2020.3

3. 研究費

3-1. 取得研究費

種別	資金源・種別等	研究課題・費目	代表者	金額(千円)	期間
学外助成	科学研究費補助金・基盤研究(C)	災害に強い地域づくりに向けた地域防災・復興システム構築に関する国際比較	長谷川万由美	200	2019-2022
学外助成	科学研究費補助金・基盤研究(C)	内発的復興を視野に入れた災害ボランティアコーディネーションシステムの構築	長谷川万由美	100	2016-2020
学外助成	大学コンソーシアム栃木寄付金	とちぎグローバル人材育成プログラム共通科目開講経費	飯塚明子	100	2019
学内助成	異分野融合スタートアップ研究助成	防災に関する研究論文と持続可能な開発目標を関連付けたデータベースの構築	飯塚明子	200	2019

4. 教育活動

4-1. 講義

	講義・授業名	学期	種別・対象学年	単位数	備考
1	災害に強いコミュニケーションづくり	前期	基盤教育	2	
2	Disaster Studies	前期	国際学部2年	2	英語開講科目
3	Risk Management	前期集中	専門教育科目	2	英語開講科目
4	国際キャリア教育プログラム	前期集中	全学科目	2	分科会「災害と国際協力」を担当
5	日研生特別研究II	前期	日本語・日本文化研修留学生	2	留学生・国際交流センター開講科目
6	3.11 学問の不確かさ～震災後の大学で考える	前期	基盤教育	2	1コマ担当
7	防災と国際協力I	後期集中	大学院	1	
8	防災と国際協力II	後期集中	大学院	1	
9	外国語臨地演習(英語)	後期	演習・全学科目	2	分担
10	国際インターンシップ	通年集中	全学科目	1	同WGで運営

4-2. 出張講義

	実施校名	講義・授業テーマ	年月	備考
1	栃木県立小山市城南高校	災害と多文化共生：災害時の外国人について考えてみよう	2019/6/11	国際理解講座の講師
2	栃木県立佐野高等学校	スーパーグローバルハイスクール課題研究発表会	2019/7/12	講師

5. 学内活動

種別	委員会・役職等	任期	備考
全学委員会	学術国際委員会・オブザーバー	2019年度	
	留学生専門委員会・委員	2019年度	
	キャリア教育・就職支援センター会議・オブザーバー	2019年度	
	国際インターンシップWG・委員	2019年度	
	SDGs WG 委員	2019年度	
学部委員会	国際キャリア教育プログラム運営委員会		国際学部
センター内	留学生指導相談委員	2019年度	
	広報委員	2019年度	

6. 学外活動

6-1. 学会活動

学会名	役職名
国際開発学会	会員
地域安全学会	会員
Association for Research on Nonprofit Organizations and Voluntary Action (ARNOVA)	会員、国際会議分科会司会
Association for Asian Studies (AAS)	会員

6-2. 委嘱委員

学会名	役職名
Disaster Prevention and Management: An International Journal, Emerald Publishing	査読協力者
Voluntas: International Journal of Volunteer and Nonprofit Organizations	査読協力者
栃木県災害ボランティア活動検討会	委員
公益社団法人 Civic Force 「夢を応援・東北 NPO パートナー協働事業」	審査委員、評価委員

IV 資 料

1 留学生在籍状況

(1) 留学生種別在籍者数 (2019年5月現在)

	種 別	所 属	人 数	小 計
正規生	学 部	地域デザイン科学部	4	48
		国際学部	23	
		教育学部	3	
		工学部	12	
		農学部	6	
	大学院	地域創生科学研究科	54	119
		国際学研究科	30	
		教育学研究科	1	
		工学研究科	22	
		農学研究科	3	
		連合農学研究科	9	
非正規生	研究生	地域デザイン科学部	5	30
		国際学部・国際学研究科	19	
		教育学部・教育学研究科	3	
		工学部・工学研究科	2	
		農学部・農学研究科	1	
		連合農学研究科	0	
		留学生・国際交流センター	0	
	特別聴講学生 (協定校との交換留学生)	43	43	
	日本語・日本文化研修留学生	4	4	
	教員研修留学生	0	0	
合 計			244	244

(2) 国・地域別留学生数 (国・地域数：22カ国・地域)

国 名	人 数	国 名	人 数	国 名	人 数
中国	141	ドイツ	3	バハマ	1
マレーシア	20	イギリス	2	ラオス	1
ベトナム	15	ガーナ	2		
韓国	13	ロシア	2		
台湾	9	インド	1		
カンボジア	8	ウズベキスタン	1		
モンゴル	8	エジプト	1		
タイ	6	オマーン	1		
バングラデシュ	4	スロバキア	1		
インドネシア	3	ネパール	1	合 計	244

2 国際交流協定校との受入・派遣状況一覧

(1) 大学間交流協定校との学生派遣・受入実績

大 学 名	国(地域)名	区分	年度				
			H27	H28	H29	H30	H31
浙江工業大学	中国	派遣					0
カセサート大学	タイ	派遣	3	4	3	2	2
復旦大学	中国	派遣			0		
ビクトリア大学	オーストラリア	派遣	1				
ビクトリア大学	オーストラリア	協定校私費					0
祥明大学校	韓国	派遣	3	4	4	1	4
ノーザン・ブリティッシュ・コロンビア大学	カナダ	派遣	2	2	2	1	1
		協定校私費	1	1	1		0
電子科技大学	中国	派遣					
エアランゲン大学	ドイツ	派遣	3	3	4	3	3
浙江師範大学	中国	派遣					
浙江大学	中国	派遣	1	1	1	2	3
内蒙古農業大学	中国	派遣					
尚州大学校	韓国	派遣	/	/	/	/	/
ボゴール農科大学	インドネシア	派遣	0				
寧波大学	中国	派遣	1			0	3
国立台湾師範大学	台湾	派遣	1	2	2	2	2
		協定校私費	1				
益山大学	韓国	派遣	/	/	/	/	/
香港大学	中国	派遣	3	1	2		1
国立政治大学	台湾	派遣	2	1	1	1	1
パラツキー大学	チェコ	派遣	2	2	2	2	2
モンゴル人文大学	モンゴル	派遣			1		
ダッカ大学	バングラデシュ	派遣					
モンゴル生命科技大学	モンゴル	派遣				1	
蓮庵大学	韓国	派遣					
ノースダコタ大学	アメリカ	派遣					
		協定校私費	1				
オルレアン大学	フランス	派遣	3	3	2	1	2
アジア工科大学	タイ	派遣					
全北大学校	韓国	派遣	0	1		0	0
東フィンランド大学	フィンランド	派遣				0	
慶北大学校	韓国	派遣	1	0	1	0	2
トライン大学	アメリカ	派遣	2	2	2	2	2
アイルランド国立大学ダブリン校	アイルランド	派遣	1				
		ダブルディグリー		3	2	3	3
王立ブノンベン大学	カンボジア	派遣		3	2	3	3
ヴァンセンズ大学	アメリカ	派遣	/	2	2	2	2
ヴァンセンズ大学	アメリカ	協定校私費	/	1			1
ポンティフィシアカトリック大学	ペルー	派遣	/	/	1	1	1
サラワク大学	マレーシア	派遣	/	/	/	0	3
		協定校私費	/	/	/		1
ダナン科学技術大学	ベトナム	派遣	/	/	/		
ペラデニヤ大学	スリランカ	派遣	/	/	/	1	0
ガーナ大学	ガーナ	派遣	/	/	/	1	1
合 計			32	33	33	26	40

大 学 名	国(地域)名	区分	年度				
			H27	H28	H29	H30	H31
浙江工業大学	中国	受入	2	1		1	
カセサート大学	タイ	受入	4	1	3	4	2
復旦大学	中国	受入	1				
ビクトリア大学	オーストラリア	受入					
祥明大学校	韓国	受入	4	4	4	4	4
ノーザン・ブリティッシュ・コロンビア大学	カナダ	受入					
電子科技大学	中国	受入	2	2	3	2	1
エアランゲン大学	ドイツ	受入	1	1			1

浙江師範大学	中国	受入	3	2	3	3	3
浙江大学	中国	受入				2	3
内蒙古農業大学	中国	受入					
尚州大学校	韓国	受入					
ボゴール農科大学	インドネシア	受入	/	/	/	/	/
寧波大学	中国	受入	4	4	4	4	4
国立台湾師範大学	台湾	受入	4	3	4	4	3
益山大学	韓国	受入	/	/	/	/	/
香港大学	中国	受入	1		0	1	2
国立政治大学	台湾	受入	1	1	1	1	1
パラツキー大学	チェコ	受入	1	2	1	1	
モンゴル人文大学	モンゴル	受入					
ダッカ大学	バングラデシュ	受入					
モンゴル生命科技大学	モンゴル	受入	1	0	1	1	
蓮庵大学	韓国	受入			3		
ノースダコタ大学	アメリカ	受入				1	
オルレアン大学	フランス	受入					
アジア工科大学	タイ	受入					
全北大学校	韓国	受入	2	1	3	3	3
東フィンランド大学	フィンランド	受入					
慶北大学校	韓国	受入		2	3		2
トライン大学	アメリカ	受入					
アイルランド国立大学ダブリン校	アイルランド	受入					
王立ブノンベン大学	カンボジア	受入	1	3	2	3	3
ヴィンセンス大学	アメリカ	受入	/	1			
ポンティフィシアカトリック大学	ペルー	受入	/	/			
サラワク大学	マレーシア	受入	/	/	/		
ダナン科学技術大学	ベトナム	受入	/	/	/		
ペラデニヤ大学	スリランカ	受入	/	/	/		
ガーナ大学	ガーナ	受入	/	/	/	1	
合 計			32	28	35	36	32

(2) 部局間交流協定校との学生派遣・受入実績

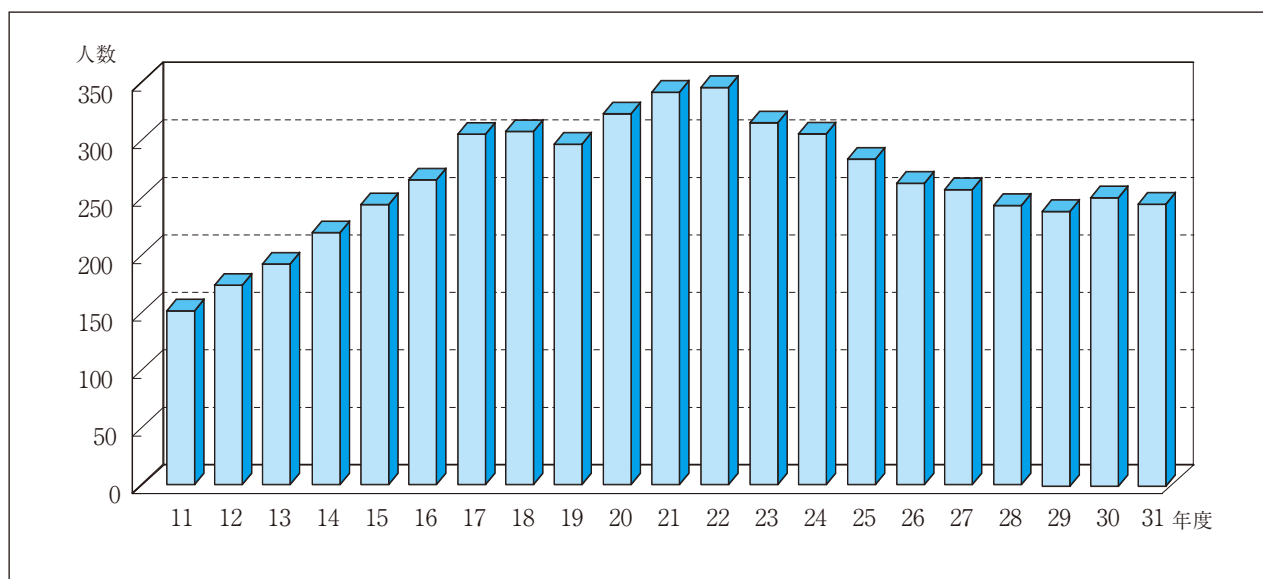
大 学 名	国(地域)名	本学の締結部局	区分	年度				
				H27	H28	H29	H30	H31
国立暨南国際大学(人文学院)	台湾	国際学部	派遣					
全北大学校	韓国	農学部	派遣	/	/	/	/	/
東華大学	中国	工学部	派遣					
龍華科技大学	台湾	工学部	派遣					
釜慶大学校	韓国	国際学部	派遣	1	0	1	1	1
イルクーツク国立大学	ロシア	国際学部	派遣					2
キングモンクット工科大学トンブリー校	タイ	農学研究科	派遣					
齊齊哈爾大学	中国	国際学部	派遣					
ダマスカス大学	シリア	国際学部	派遣					
華南農業大学	中国	国際学部	派遣					
セントラル・ランカシャー大学	イギリス	国際学部	派遣	1	1	2	3	2
ポンティフィシアカトリック大学	ペルー	国際学部	派遣	0		/	/	/
国立台北大学	台湾	国際学部	派遣	1				
コリマ大学	メキシコ	国際学部	派遣	1	1	2	0	
遼寧科技大学	中国	工学部	派遣					
ハノイ大学	ベトナム	国際学部	派遣 協定校私費	2	2	0	2	2
トリア大学	ドイツ	国際学部	派遣	3	2	3	2	2
華東理工大學	中国	工学部	派遣					
国立暨南国際大学(教育学院)	台湾	国際学部	派遣					
ペラデニヤ大学	スリランカ	国際学部	派遣	/	3	1	/	/
ガーナ大学	ガーナ	農学部	派遣	/			/	/
ブルサ工科大学	トルコ	農学部	派遣	/			/	/
東フィンランド大学	フィンランド	工学研究科	ダブルディグリー					
ランブンマンクラット大学	インドネシア	農学部	派遣	/	/	/	/	/

カンボジア王立農業大学	カンボジア	農学部	派遣					
トリサクティ大学	インドネシア	地域デザイン科学部	派遣					
ラオス国立大学	ラオス	農学部	派遣					
ベトナム国家農業大学	ベトナム	農学部	派遣					
モンゴル科学技術大学	モンゴル	農学部	派遣					
タマサート大学	タイ	国際学部	派遣					
ノアカリ科学技術大学	バングラデシュ	工学部・工学研究科	派遣					
上海交通大学	中国	工学部・工学研究科 地域創生科学研究科	派遣					
合 計				9	10	9	8	9

大 学 名	国(地域)名	本学の締結部局	区分	年度				
				H27	H28	H29	H30	H31
国立暨南国際大学(人文学院)	台湾	国際学部	受入	3	2	1	2	0
全北大学校	韓国	農学部	受入					
東華大学	中国	工学部	受入		1			
龍華科技大学	台湾	工学部	受入	1	2		3	3
釜慶大学校	韓国	国際学部	受入	1	3	1	2	1
イルクーツク国立大学	ロシア	国際学部	受入					4
キングモンクット工科大学トンブリー校	タイ	農学研究科	受入					
齊齊哈爾大学	中国	国際学部	受入	2	2	2	2	2
ダマスカス大学	シリア	国際学部	受入					
華南農業大学	中国	国際学部	受入					
セントラル・ランカシャー大学	イギリス	国際学部	受入	1	2	1	3	
ポンティフィシアカトリック大学	ペルー	国際学部	受入					
国立台北大学	台湾	国際学部	受入	0			1	
コリマ大学	メキシコ	国際学部	受入		1		2	
遼寧科技大学	中国	工学部	受入	1		1	1	
ハノイ大学	ベトナム	国際学部	受入	2	2	2	2	2
トリア大学	ドイツ	国際学部	受入	2	2		2	2
華東理工大学	中国	工学部	受入					
国立暨南国際大学(教育学院)	台湾	国際学部	受入	2	1	2	1	2
ペラデニヤ大学	スリランカ	国際学部	受入					
ガーナ大学	ガーナ	農学部	受入					
ブルサ工科大学	トルコ	農学部	受入					
東フィンランド大学	フィンランド	工学研究科	受入					
ランブマンクラット大学	インドネシア	農学部	受入		2			1
カンボジア王立農業大学	カンボジア	農学部	受入					
トリサクティ大学	インドネシア	地域デザイン科学部	受入					
ラオス国立大学	ラオス	農学部	受入					
ベトナム国家農業大学	ベトナム	農学部	受入					
モンゴル科学技術大学	モンゴル	農学部	受入					
タマサート大学	タイ	国際学部	受入					
ノアカリ科学技術大学	バングラデシュ	工学部・工学研究科	受入					
上海交通大学	中国	工学部・工学研究科 地域創生科学研究科	受入					1
合 計				15	20	10	21	18

(3) 留学生数の推移

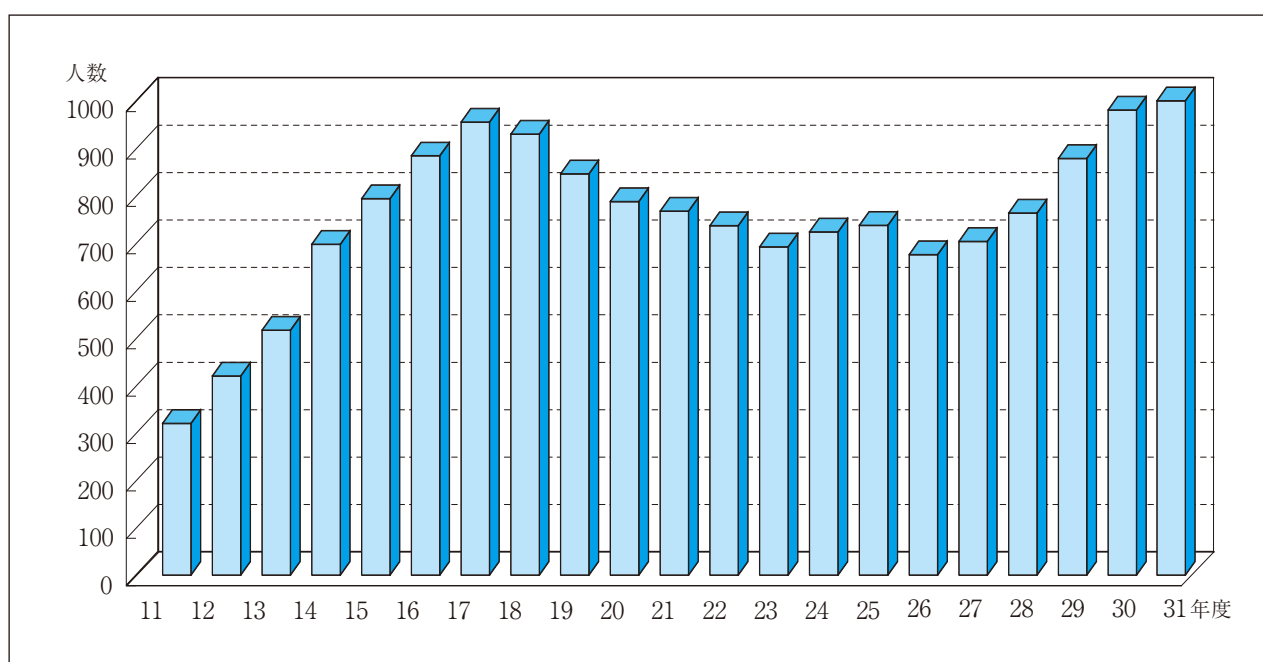
[各年5月1日現在]



年度	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
人数	153	176	193	221	244	264	303	306	295	322	340	345	313	305	284	263	257	244	237	249	244

(4) 栃木県内高等教育機関に在籍の外国人留学生数の推移

[各年5月1日現在]



年度	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
人数	318	422	518	697	795	884	956	928	846	788	768	737	693	722	739	677	703	767	877	980	1004

3 留学生・国際交流センターの発行物

本年度は、以下の資料や報告書などを発行した。

- 1) 『平成 31 年度日本語科目授業案内 (Course Descriptions)』 (2019 年 4 月)
- 2) 『留学生・国際交流センター年報 2018 年度』 (2019 年 8 月)
- 3) 『2018-2019 年度日本語・日本文化研修留学生研修論文集』 (2020 年 3 月)
- 4) 『平成 28 年度春期～令和元年度夏期 国際インターンシップ報告書』 (2020 年 3 月)

宇都宮大学
留学生・国際交流センター年報 2019年度

発行日：2020（令和2）年8月1日

編者：宇都宮大学留学生・国際交流センター
（編集担当：湯本浩之・飯塚明子）

発者：宇都宮大学留学生・国際交流センター
〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350
＜担当部局＞留学生・国際交流センター事務室
TEL: 028-649-5099 FAX: 028-649-5115
Email: ryuugak1@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp
URL: <http://intl.utsunomiya-u.ac.jp/index.html>

レイアウト・印刷：株式会社アートプレス

